
★駆逐艦時風★ある少年の体験★

重巡とね

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

★駆逐艦時風★ある少年の体験★

【Nコード】

N4948N

【作者名】

重巡とね

【あらすじ】

家出中の少年が海岸沿いのある岩に座ったら変な穴に落ちてしまふ。

穴に落ちた少年は旧海軍の駆逐艦を発見する。

小年少女達と艦魂の少女の物語を描く艦魂小説です。

第零話 家出少年の発見！（前書き）

私が前々から計画していた作品です。
どうか暖かく見てください。

第零話 家出少年の発見！

1945年8月14日・・・

ある研究施設で男達が慌てている。

男1「急げ！すべて焼却するんだ。」

男2「誰かオイルもってこい！」

男3「おい！これはどうする？」

男1「それはここに放置しろ焼却するのは書類だけだ！」

男達は慌てて書類を処分している。

ある少女の叫びも聞かないで・・・

2010年8月のある日・・・

「あちゝまだまだ夏だなゝ」

この少年の名前は矢野大和、今家出中だ。

なぜ家出しているのかと言うと3日前・・・

大和

「何でだよ親父何で学校を退学しなきゃいけないんだよ」

大和父

「うるさいお前は黙って親の言うことを聞いてればいいんだ！」

大和

「もううんざりだこんな家出て行ってやる！」

大和父

「かってにしろ！」

つまり父親と喧嘩して家出をしている。

大和

「しかし・・・暑いし重いし・・・持ってくるんじゃないかった」

ちなみに服装はTシャツに半ズボンそれに帽子をかぶっている

背中には背負い式バックに布に包まれた細長い棒状のもの

大和

「しかしここはどこ、ん・・・この音は・・・」

大和は音のするほうに走っていき、大和が見つけたものは。

大和

「海か・・・」

大和は目の前の海を見てただ呆然とみていた。

大和

「俺はここまで歩いたのか・・・そう思うと疲れたなどここに座るところないのかな？」

そう言う大和は周りをきよろきよろしていると。

大和

「お・・・あの岩がいいなどっこいしょっと」

そう言うとその岩に腰をかけたその時。

ガコンッ

大和「ん・・・何の音・・・」

パカッ

大和の下の地面が割れて大和は穴に落ちた。

大和

「うわあああああああああああ」

次回へ

第零話 家出少年の発見！（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております。

第一話 家出少年の出会い？（前書き）

前回、家出少年矢野大和は穴に落ちてしまった。

登場人物

（やのやまと矢野大和）

役職中学生

出身岡山県岡山市

年齢（2010年8月現在） 14歳

身長170・5？

体重51・8k

誕生日10月31日

家族構成 父 母（行方不明） 妹、シナノ（合宿中） 弟 ヒュウガ（合宿中）

好きなもの、軍艦（特に旧日本海軍の軍艦） 架空艦（自分でよく書いたりする）

架空戦記小説 友人 海軍 日本刀 シナノ ヒュウガ

嫌いなもの 父 戦争を楽しむ人 幽霊

旧日本陸軍（一部の人間のみ）

今作の主人公、現在父親と喧嘩をして家出中。

父親にはいつも振り回されているので父親とはいつも対立していた。

友人は大勢いる。

兄弟思いでシナノとヒュウガはいつも大和を慕っている。

宝物はお爺さんからもらった日本刀備前長船。

第一話 家出少年の出会い？

大和

「うあああああああああ！！！！！！」

前回大和は岩に座っていると地面が割れて穴に落ちていた。

ボスン

大和

「ヌォ」

大和はクッションみたいなものに落下した。

大和

「ゲホゲホ・・・ほこりがひどいな、つーかここどこ？」

大和は辺りを見渡すが暗くて何も見えない。

大和

「たしかバックに懐中電灯があつたはず。」

大和はバックから懐中電灯を出してスイッチをいれた。

カチッ

大和

「えっと照明のスイッチ、スイッチ・・・あつた。」

ガコン・・・キュイイイイン

大和が照明のスイッチを入れた

周りが明るくなったすると・・・

大和

「な・・・なんじゃこりゃあああああ」

大和は驚愕した目の前にドックみたいなものがありそのドックの中には軍艦が一隻停泊していた。

大和

「な・・・なんでこんなところに軍艦があるんだ。しかも今の護衛艦でもないし・・・」

大和は軍艦を珍しそうに見ていると舷側に名前が描いていた。

大和

「と・き・か・ぜ・・・時風？旧日本海軍で時津風って名前の駆逐艦はあったけど・・・」

「誰ですか、そこにいるのは。」！！

突然声がした。

大和は声のするほうに振り向いた。

そこには1人の少女が立っていた。

身長は大和よりかは小さい。

年齢は大和と同じ年ぐらいにみえる。

格好は旧日本海軍の水兵服を着ていた。

背中には日本刀を背負っている。

「もう一度言います、あなたはだれですか。」？

そう言うのと背中に背負っている日本刀に手を伸ばそうとする

大和

「ま・・・待ってくれ、俺の名前は矢野大和ただの民間人だ偶然ここにつながる穴に落ちてしまったんだよ・・・ところで君は誰。」？

自分の名前を名乗ってこちらも聞いてみた。

すると少女は日本刀から手を下ろしその場で敬礼して言った。

時風

「私は大日本帝国海軍駆逐艦、艦魂、時風です」

大和

「艦魂」？

次回へ

第一話 家出少年の出会い？（後書き）

ご意見感想おまちしております。

第二話 家出少年の苦痛!?(前書き)

艦魂でた〜!!!

けど2話連続投稿はきつい・・・

大和「大丈夫か」?

なんとか・・・

第二話 家出少年の苦痛!?

大和

「艦魂」?

前回

穴の中の軍艦を見つけた大和は艦魂と名乗る少女と遭遇した。

艦魂とは船乗り達に受け継がれる伝説で艦に宿る精霊みたいなものである。

その姿は例外なしに若い女性の姿だと言われている。

見える人は、靈感があるもの・波長があうもの・艦をこよなく愛するもの

など見える人は少数だ

大和

「艦魂っていきなり言われても・・・小説の中だけだと思ってたし・・・」

時風

「信じてもらえませんか」?

大和

「・・・うん」

時風

「うーん・・・荒療治だけどこれしかないか・・・」

そう言うとき時風は大和の頭上に指をさした。

すると・・・

ゴチーン

大和の頭上からフライパンが落ちてきた

ボタン

大和はフライパンがもろに直撃したので気絶してしまった。

数十分後

大和

「うゝ・・・ここは・・・」

時風

「気がつきました」？

大和は何があつたかを思い出した。

時風

「さっきので私が艦魂だつてことを認めますね」？

大和

「ああ・・・認め・・・ん」！？

大和は寝返りをうとうとしたとき自分の置かれている状況を見て驚

いた。

時風は大和を膝枕をしていたのだ。

大和

「ぬわーーーーー」！！！！

大和はそこから全力退避をした

しかし・・・

ドシューーン ガラガラドツシャアアン・・・

大和は壁に激突しその上の棚が落下した。

時風

「あのゝ大丈夫・・・じゃあないですよね」

次回へ

登場人物

（時風）

時風型駆逐艦一番艦時風

出身不明

髪型 ツインテール

外見年齢 13～14歳

身長 156・4センチ

体重 聞かないでください（本人談）

誕生日 8月1日

家族構成不明

好きなもの・大和・大和という時間・艦隊決戦・お菓子・日本刀
嫌いなもの・特になし

今作のヒロイン65年間、地下の隠しドックの中にいたところを
大和に発見された。

明るい性格だが恋のほうは引き気味。

一度も実戦経験がなく 一度でもいいから 敵艦隊と戦いたいと
願っている。

第二話 家出少年の苦痛!?(後書き)

ご意見感想お待ちしております

第三話 家出少年の驚き! (前書き)

学校始まった

更新速度が遅くなるかもしれません。

第三話 家出少年の驚き！

大和

「いやゝすいませんねゝ二度も気絶してしまつて」

前回大和は時風の膝枕から逃げようとして

壁に激突してさらに壁にかけてあつた柵が落下して気絶したのだ。

時風

「いえ、私にも責任はあつたんですし・・・ところで、何で膝枕しただけで逃げたんですか」？

時風が聞くと大和は頬を赤くしていった

大和

「いや・・・実は俺女子との面識がまったくなくてそれで逃げたんです」

時風

「あゝそう言うわけですか」

大和

「ところで・・・」

時風

「はい、何ですか」？

大和がまじめな顔になり言った。

大和

「君は大日本帝国の駆逐艦と言ったよね？俺の知る限り時風と言う駆逐艦は帝国海軍にはなかったぞ」

すると時風もまじめな顔になっていった。

時風

「私は65年前にこの隠しドックで作られました」

大和

「終戦の年に作られたのか」？

時風

「はい・・・私が完成したのは1945年8月1日、日本は敗北の道を歩んでいる中私は生まれました」

大和

「その六日後には広島に原爆投下その後三日後に長崎に原爆投下その七日後に日本無条件降伏・・・」

時風

「原爆・・・あのアメリカの新型爆弾のことですか」？

大和

「ああ・・・そうか君は原爆の名前を知らないんだね」

時風

「はいその原爆の説明は後でいいです」

大和

「ああ続けてくれないか時風」

時風

「はい、無条件降伏する前日私を開発した研究員達は私の事に関する資料を全部燃やしました」

大和

「全部燃やしたのか」？

時風

「はい全部燃やしました」

時風は少し悲しそうな顔で言った

時風

「その後私は65年間ここで1人でいました」

大和

「君が大日本帝国海軍最後の駆逐艦と言いたいわけだね」

時風

「はい・・・」

大和

「しかし・・・君の本体の関わる資料も燃やしたんだろ」？

時風

「多分燃やされていると思います」

大和

「そうか・・・せめて武装だけでも知りたい・・・ん？まてよ・・・あー！ー！ー！！！！」

突然大和が大声をだした。

時風

「ど、どうしたんですか」？

大和

「さっき俺の上に落ちてきた棚にあった工具箱に君の船体に関する情報があつたんだよ」！

時風

「本当ですか」！！！！

大和

「ああ、ちらっと見えたんだよ〔駆逐艦時風性能〕と書かれた紙がえくと確かここに・・・あつた」！！！！

時風

「そんなところにあつたんですね」

大和

「見てもいいか」？

時風

「はい、どうぞ」

時風型駆逐艦性能

排水量2300トン（基準）2600トン（満載）

全長120・9メートル

全幅10・5メートル

機関艦本式タービン2基2軸

最大速度38・5ノット（約69キロ）

航続距離18ノットで7000里

重油730トン

乗員250人

武装50口径12・7センチ主砲連装2基

5式40mm連装機関砲4基

96式25mm三連装機関銃8基 同単装15基

5式61cm4連装魚雷発射管2基

94式爆雷投射機2基

爆雷100個

同型艦時風・時波・時

大和

「・・・すごいなお前・・・」

時風

「・・・はい自分でも驚きです・・・」

大和

「しかも同型艦もあるし・・・」

時風

「・・・いるんでしょうか・・・私の妹達・・・」

大和

「いるさ、きっと・・・」

次回へ

第三話 家出少年の驚き！（後書き）

ご意見感想お待ちしております。

第四話 家出少年の発見2!?(前書き)

明日から休みだゝ

昨日更新するはずだったのに・・・

大和「何があったんだ」?

聞かないで・・・

大和「分かった・・・」

第四話 家出少年の発見2!?

大和

「しかし・・・ここ広いな」

前回大和と時風は駆逐艦時風に関する資料を発見しさらに時風に同型艦・つまり妹達がいる可能性が出てきた。

時風

「当たり前です。私の本体は120メートルと少しあるんですよ」

時風が腰に手を当て得意げに言った。

大和

「・・・ぷっははは」

時風

「・・・あはははは」

二人は顔を見合わせて笑った。

大和

「ところで気になっていたんだけどその奥の扉何が入っているの」
？

大和が奥の扉に指を指す。

時風

「いえ、・・・それが私も知らないんです私が生まれてきた時からあつたんです」

大和

「ふゝん・・・開けていいか」？

時風

「大丈夫ですか、もしかしたら中に罠があるかもしれせんよ」？

大和

「大丈夫もしものがあつたらこれがあるから」

大和はそう言うとなかを包んでいる長い布からあるものを出した。

時風

「それは・・・日本刀」？

大和

「ああ・・・日本刀、備前長船長光だ」

時風

「何でそんなものを持っているんですか」？

大和

「ここの中身を見てから話す・・・開けるぞ」

時風

「どうぞ・・・」

ギ
イ
イ
イ
イ
イ
イ
・
・
・

大和が扉を開ける。

時風

「真つ暗です」

大和

「行くか・・・」
「？」

時風

「行きます・・・」

二人は懷中電灯をつけて真っ暗な部屋の搜索を開始した。

大和

「え」と電気の電源はどこだ？」

時風

「大和さんありましたよ」

時風が電灯のスイッチを入れる

カチツ

大和

「なんだこは」
？

時風
「さあ・・・」

大和達のいた部屋は縦40m幅15m位の細長い部屋だった。それに・・・

大和
「何だこれは」？

大和は目の前にある布を被されている物を見つけた。しかもかなり大きい

大和
「時風、そっちもってくれないか」？

時風
「はい、いいですよ」

二人はかぶさっている布を、とったすると・・・

大和
「こ・・・これは・・・」

時風
「な・・・なんでこんな所に・・・」

二人は目の前にあるものが信じられなかった。
それは濃い緑色と灰色をしており胴体翼には綺麗な日の丸が描かれておりエンジンは液冷式

大和

「これは・・・彗星・・・」

大和と時風が見つけたのは旧日本海軍艦上爆撃機彗星であった、しかも・・・

時風

「大和さんこっちも見てください」！

時風が慌てて大和を呼んだ。

時風が見つけたものは・・・

色は彗星とほぼ同じでエンジンは空冷式、翼は奇妙な形をしている。

大和

「今度は何・・・流星改」！？

時風が見つけたのはこちらも同じく旧日本海軍艦上攻撃機流星改であった。

大和

「何でこんな所に彗星と流星改があるんだ・・・しかも2機ずつあるし・・・」

時風

「私にも分かりません・・・」

大和

「まず彗星と流星改の操縦席の中を調べて見ようその後はその周り」

時風

「了解です」

次回へ

第四話 家出少年の発見2!?(後書き)

ご意見ご感想お待ちしております

第五話 時風の推測！

大和

「何か見つかったか時風」

時風

「鉄板ならたくさんありました」

前回大和と時風は奥の部屋に入りそこで
旧日本海軍航空機彗星と流星改を見つけた。

大和

「しかし・・・何でこんな所に旧海軍機があるんだろう、しかも4
機・・・」

時風

「分かりません・・・これは私の推測ですが私の本体がここから出
た後に
ここから飛ばそうと思っていたんじゃないですか」？

大和

「でも滑走距離が足りないぞこの長さは約40m・・・君の本体
がいるドックでも
長さは約140m・・・合計180m・・・どう見ても足りないぞ」

時風

「たぶんこの鉄板で滑走路を作って飛ばすつもりだったんでしょ
あそこにまだ
たくさんありますし・・・」

大和

「でも・・・いくら離陸できたとしても着陸はどうするんだ？」

時風

「きっと陸上基地に着陸させるつもりでしょう」

大和

「なるほど、確かに一理あるな」

いや普通気づくでしょ。

大和

「なんか言ったか作者」

いいやなにも

話がずれた。

時風

「ところで・・・大和さん」

時風が不思議そうな顔で言ってきた

大和

「ん？何だ時風」

時風

「はい実はこの鉄板を持ち上げた時、妙な箱を見つけたんです」

大和

「妙な箱」？

時風

「はい外側に非常用と書かれた箱が3箱ありました」

大和

「で、その箱はどこにあるんだ」？

時風

「あそこにあります」

そう言うと時風は、箱のほうに指を指した。

大和は箱に歩み寄る。

大和

「あけようかな・・・」

時風

「ええええ！！開けるんですか」？

大和

「開けてみないと中身が分からないでしょうが」

時風

「わ・・・私はここで見てます」

そう言うとき風流星改の後ろに隠れた。

大和

「開けるぞ・・・」

時風

「ど・・・どうぞ・・・」

二人は息を飲む

大和が木箱に手をかけふたを開けた

大和

「こ・・・これは・・・」

時風

「な・・・何があったんですか」？

時風が大和に恐る恐るちかずに聞いてみた。

すると大和が時風のほうに向いた手に何かを持っている。

時風

「何ですか・・・それ」

時風が聞いてみたすると大和の顔はとてもきらきらしている。

大和

「すげえよ何でこんな所にこんなものがあるんだよ」

時風

「だからなんですかそれもったいぶらないで教えてください」

大和

「ああ・・・すまん、これは旧日本陸軍三八式歩兵銃だ」

38式歩兵銃、旧日本陸軍が使っていた有名な歩兵銃だ

時風

「何でこんなところに陸軍の武器があるんですか」？

大和

「多分・・・敵がここに来た時にための防衛手段かも知れないな」

時風

「何丁ありましたか」？

大和

「ひいーふうーみいー・・・10丁はあるな」

時風

「たくさんありますね」

大和

「他の箱には何が入っているんだ」？

時風

「私がこちらを開けるので大和さんはそちらを開けてください」

大和

「分かった」

二人は箱に手をかけ同時に開けた、すると・・・

大和

「これは・・・96式軽機関銃」！

96式機関銃、これも同じく旧陸軍が使っていた機関銃だ

時風

「こちらには38式歩兵銃と96式軽機関銃の弾薬です」！

大和

「何発ある」？

時風

「分かりません、こんなにあると・・・機関銃は何丁ありますか」？

大和

「3丁はあるな・・・」

時風

「そんなにあるんですか」？

大和

「とんでもないものを見つけたな俺たち・・・」

時風

「そうですね・・・」

二人はしばらく沈黙した。

次回へ

第五話 時風の推測！（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております

第六話 家出少年の再会・・・（前書き）

更新遅れてすいませんでした。

大和「何があったんだ作者」？

家のパソコンが大破したんだよ

時風「直ったのはいつですか」？

3日前・・・

二人「その間に更新せんかい」！！！！！！

その後作者は大和と時風にフルボッコにされたのは言うまでもなかった。

第六話 家出少年の再会・・・

大和

「そろそろここから出てみるか・・・」

前回大和と時風は航空機格納庫で鉄板と38式歩兵銃と96式軽機関銃を発見した。

時風

「え・・・もういちゃうんですか・・・」

大和

「ああ・・・そうだけど」

時風

「・・・そうですか」

時風は悲しそうな顔して言った。

大和は時風の気持ちに気づき言った。

大和

「心配するな少し外に出て様子を見てくるだけだまたここに戻ってくるよ」

大和がそう言うとき時風の顔は明るくなったと思った・・・

ガバッ

時風は大和に抱きついた。

大和

「・・・と・・・時風さん」？

時風

「本当ですよね・・・本当に帰ってきてくれますよね」？

大和

「ちゃんと帰ってきてやるから抱きつかないでくれ」

時風

「でも出口がどこにあるか分かりますか」？

大和

「ああ・・・それならさつき落ちた穴にはしごがあったからそれを使うよ」

大和がはしごを上がっていくその横で時風が見ている

大和

「大丈夫だよ時風すぐに戻るから」

時風

「本当にすぐに戻ってきてくださいよ」

大和

「ああ、すぐ戻るよ」

そう言って大和ははしごを上がっていった

かん かん かん かん

はしごの金属音が穴の中に響く

大和

「・・・長いはしごだな・・・お、出口だ」

そう言って大和は光が見えている所から出た。

大和

「ここか・・・」

大和が辺りを見回した。

大和

「思えばここから落ちたからな・・・こんなことしてる場合じゃない食料買わないと・・・」

???

「お兄ちゃん・・・」？

突然後ろから声がした

大和は声がするほうに振り向いた。

そこには白いワンピースを着た少女がたっていた。

大和

「シナノ・・・シナノなのか」？

次回へ

第六話 家出少年の再会・・・（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております。

第七話 家出少年の説明（前書き）

時風更新します。

大和・時風「早くしろ」！！！！

がはっ！！！！

第七話 家出少年の説明

大和

「シナノ・・・シナノなのか・・・」

前回大和は時風が隠されているドックからいったん出た。
そこにいたのは・・・。

シナノ

「お兄ちゃん」！！！！

タタタタタタタタ

大和

「シナノ」！！！！

タタタタタタタタ

ガバッ

二人は駆け寄りお互いを抱きしめた。

シナノ

「うえ・・・お兄ちゃんお兄ちゃん・・・」

大和

「シナノお前どうしてここにいるんだ？お前は今ヒュウガと合宿中だろう」？

シナノ

「お父さんからお兄ちゃんが家出したから探すのを手伝って昨日連絡があって探しに来たの」

大和

「あのクソ親父・・・妹に探しに来さして自分は何やってんだ・・・」

シナノ

「多分・・・仕事・・・」

大和

「仕事かい」！！！！

シナノ

「けど・・・お兄ちゃんが見つかってよかった・・・うえゝん」

シナノはその場で泣き崩れた。

大和

「泣くな泣くな俺が悪かった、だから泣くな」

大和がシナノをなだめる

シナノ

「だったら一緒に家に帰ろうよゝ」

大和

「それはだめ」

シナノ

「どうして駄目なの」？

大和

「親父が俺の退学を取り下げるまで絶対帰らない」

シナノ

「そう言えば何でお父さんは何でお兄ちゃんを退学させようとしたの」？

大和はいったん地べたに座り込んで話し始めた。

大和

「あの親父・・・俺の友人ともう遊ぶなと言いやがるんだ」

シナノ

「お父さんは何でそんなこと言ったの」？

大和

「俺の友人が喧嘩をしたんだよ、それだけで遊ぶなと言いやがるんだ」

シナノ

「お兄ちゃんのお友達は何で喧嘩したの」？

大和

「確か・・・相手が小猫をいじめて居たから注意したんだ、そして相手は（うるさい！！）と言って殴りかかって来たから仕方なく相手を殴った、と言っていたつまり正当防衛をしたわけ」

シナノ

「明らかに小猫をいじめていたほうが悪いよ」

大和

「それで俺は親父に嫌だって言ったら（なら退学だ）！！！！と言っ
たんだ。」

シナノ

「明らかにお父さんが悪いね」

大和

「そうだらやっぱ親父が悪いだろ」

シナノ

「でもこの三日間何してたの」？

突然の質問に大和は戸惑う

大和

「まあ・・・いろいろ・・・」

シナノ

「ふん．．．まあいいか」

シナノ

「ところで．．．お兄ちゃん」

大和

「何だシナノ」

シナノ

「さっきお兄ちゃんが出できた穴の中には何が入っているの」？

大和

「知りたいか」？

シナノは首を大きく立てに振った。

大和

「その前に食料を買ってきてから教えるついて来い」

シナノ

「あ、待ってよお兄ちゃん」

次回へ

登場人物紹介

（矢野シナノ）

役職中学生（1年生）

出身岡山県岡山市

年齢（2010年8月現在） 12歳

身長156・9センチ

体重 聞いたら死ぬ可能性が・・・（大）

髪型 腰までの長い長髪

誕生日3月23日

家族構成父 母（行方不明）大和（兄）ヒュウガ（弟）

好きなもの・家族・平和・大和・薙刀・お菓子

嫌いなもの・争い・シーシェパード・体重計に乗ること

大和の妹いつも大和にくっついていてる。

泣き虫なのがたまに傷

頼まれたら断れない性格

コスプレは着せるよりも着るほうが好き

弟のヒュウガとは双子（シナノが姉）

お父さんの命令で大和を探しに来た。

第七話 家出少年の説明（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております。

シナノ「待ってまゝす」

第八話 シナノと時風のあいさつ（前書き）

更新遅れてすいません

大和「まあ架空兵器のほうは更新しまくっていたから今回は許してやろう」

ありがとうございます

時風「私は許さないです」！！！！

ギャハ！！！！

作者骨折

第八話 シナノと時風のあいさつ

シナノ

「へえ、その穴に落ちてお兄ちゃんが好きな帝国海軍の隠された駆逐艦を見つけた……ってわけ」？

前回大和は妹のシナノと再会し、なぜ家出したのかを話した。

大和

「そういうわけだよシナノ」

シナノ

「でもその時風って子は艦魂って呼ばれている人でしょ……私にも見えるかなあ」

大和

「見える人は靈感がある人と、波長が合う人に、艦をこよなく愛する人だけと言われているからな」

シナノ

「私……全部ないかも……」

大和「だからって涙目になるのやめてくれない……」

シナノ「だって」

大和「ぐずぐず言うとおいていくぞ」

シナノ「あ、お兄ちゃん待ってよ」

そういつて二人は穴のほうに向かって歩いた
穴の目の前まで来るとシナノが口を開いた。

シナノ

「お兄ちゃん……この穴から行くの……」？

大和

「そうだけど……恐いのかシナノ」？

シナノ

「う、うん……ちょっとだけね……」

大和

「はしごから行くか……それとも落下する」？

シナノ

「はしごのほうがいい」

大和

「じゃあ行くぞ」

シナノ

「う、うん・・・」

カン・カン・カン・カン

シナノ

「お、お兄ちゃん」

大和 「何だ、シナノ」

シナノ

「ま、まだ付かないの」？

大和

「そう少しだ・・・ほら灯りが見えてきただろ」

シナノ
「あ、本当だ」

そして二人は時風が隠されているドックに着いた

シナノ

「わぁ〜本当にあつた駆逐艦が・・・」

大和

「お前その言葉からすると信じてなかったな・・・」

時風

「ん・・・この声は・・・大和さん」！

タタタタタタタタタタタタ！！！！

時風が大和の声のするほうに走る

時風

「大和さんお帰りな・・・へっ」

時風は大和のほうに行ったら・・・
大和の横にいる女の子^{シナノ}を見た

大和

「お、時風ただいま」

大和が時風がいることに気づいて近くに寄った
時風は顔を引きつりながら言った。

時風

「・・・大和さん・・・その後ろにいる女の方は誰ですか・・・」

大和

「あれは俺の妹のシナノここを出た時に俺を探しに来てここに案内したんだ」

時風

「でも私の姿が見えるのはごくわずかですよ大和さんがひとり言、言っていると思われますよ」

シナノ

「お兄ちゃん何してるの・・・その子・・・誰・・・」？

大和・時風

「見えるんかい！！！」

シナノの言葉に二人は驚いた。

シナノ

「え・・・じゃあその子がさっきお兄ちゃんが言っていた艦魂の・・・」

67

時風

「あ、初めまして大日本帝国海軍駆逐艦時風です」

シナノ

「あ、すみません、私は矢野シナノと言います」

次回へ

第八話 シナノと時風のあいさつ（後書き）

ご意見感想お待ちしております。

第九話 家出少年の説明2

大和

「でもまさかシナノも艦魂が見えるとは思わなかったぞ」

前回

大和とシナノは二人で時風が隠されているドックに下りたらシナノも艦魂が見えていた。

時風

「いいじゃあないですか見える人は見える人です」

シナノ

「そうだよお兄ちゃん」

大和

「・・・まあいいが」

時風

「そういえば大和さんが持っている備前長船の説明まだでしたよね？」

大和

「あ、そうだったな今から説明するから」

シナノ

「私も始めて聞くんだけど」

大和

「あれ？話してなかったけ」？

シナノ

「そうだよ」

大和

「わかったわかった今話すから一旦座ろう」

時風・シナノ

「「は」い」

大和・時風・シナノが近くにあった椅子を持ってきて

円を描くように椅子を並べ座った。

大和

「さて、話しますか・・・まずこの刀の歴史を言わないとな、この刀は俺とシナノのご先祖様
矢野喜久治鳳雛と言うお侍だったご先祖様のものだったんだ」

シナノ

「私も聞いたことがある、確かご先祖様が使えていたお殿様が夜盗に襲われてうちのご先祖様が守ったのその功績からお殿様から備前長船長光をいただいたの」

大和

「そうそうこの刀は戦争中岡山大空襲の時も大事に扱われて無事だったんだ、
それ以来その刀は矢野家の家宝となってうちのお爺さんから貰ったんだ」

時風

「あれ？・・・なら大和さんの前に大和さんのお父さんが貰うはずでは？」

大和

「いや・・・俺も何で親父じゃあなくて俺に渡したのか未だに分からないんだ」

時風

「ならお爺さんに聞けばいいんじゃないですか」？

時風がそう言うのと大和とシナノは少し悲しそうな顔をした。

時風はこれは地雷を踏んだと思った。

シナノ

「・・・私たちのお爺さんは2年前に亡くなったの・・・」

大和

「だからもう聞けないんだ・・・」

時風

「すみません、聞いてはいけないことを聞いてしまって・・・」

大和・シナノ

「「いや、いいんだよ時風（さん）」

三人はそれから雑談やらいろんなことをした。
すると・・・

????

「のわあああああ」!!!!!!!!!!

バフン!!!!!!

大和

「何だ?!今の叫び声は」?

時風

「大和さんが落ちた穴から聞こえました」

シナノ

「と・とにかく行ってみようよ」

三人は叫び声のした穴のほうに向かって行ってみると
そこには逆立ちみたいな状態で気絶している少年がいた

大和

「お・・・お前は・・・」

次回へ

第九話 家出少年の説明2（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております。

第十話 家出少年の紹介？

大和

「お・・・お前は・・・」

前回、大和と時風とシナノは大和の持っている日本刀の説明を聞いてた時

誰かが穴に落ちてきた。

大和

「お前はヒュウガ」！！！！

シナノ

「ヒュウガ！何でここにいるの」！！！！？？？

時風

「えーとっ・・・誰ですか」？

時風が聞いてきた。

大和

「あ・・・そうか時風にはまだ話してなかったな、こいつは俺の弟のヒュウガ」

シナノ

「私の双子の弟なの」

ヒュウガ

「う・・・うゝん」

時風

「あ！ヒュウガさんが気がついたようですよ」

ヒュウガ

「ここはど・・・兄貴！兄貴じゃあないか」

大和

「気がついたかヒュウガ」

シナノ

「どこも怪我してないよね」？

ヒュウガ

「シナノ姉さんも・・・ここはいつたい何処だ」？

大和が今までであったことと
今いる場所の説明をした。

ヒュウガ

「へっ・・・旧海軍の忘れ物がここにあるとはねっ」

シナノ

「私はお兄ちゃんと一緒にここに来たけど・・・ヒュウガはどうやって来たの」？

ヒュウガ

「いや、兄貴のことだから海の方面に行くかと思ってここに穴があったから入ろうと思ったら足滑らせて落ちたんだよ」

大和

「・・・親父の命令か」？

ヒュウガ

「いや、今回は俺の単独行動」

大和

「あの親父め・・・俺を探すなら警察使えよ」

シナノ・ヒュウガ

「警察はね、家柄的にやばいからね」

二人は苦笑いしながら言った。

時風

「・・・話がよく分かりません」

ヒュウガ

「さっきから気になっていたんだがその水兵服のひと誰」？

大和

「お前も見えるんかい」！！！！！！！！

何とヒュウガも艦魂が見えていた（おいおい・・・）

大和はヒュウガに艦魂のことを説明して
時風のことも説明した。

ヒュウガ

「・・・俺も兄貴と一緒に艦魂小説を読んだが・・・本当にいるとわな・・・」

時風

「改めまして・・・始めまして駆逐艦時風、艦魂時風です」

ヒュウガ

「あ、これはご丁寧にどうも私は矢野ヒュウガと言いますお見知りおきお・・・」

時風

「でも兄弟そろって見えるとは・・・驚きでした・・・」

大和

「俺もそうだよ・・・」

大和が頭を抱えながら言う。

シナノ

「そういえば今何時、ヒュウガ」？

ヒュウガ

「えゝとっ・・・午後19時30分」

大和

「えっ？もうそんな時間」？

ヒュウガ

「あれ？・・・時計無いの」？

大和

「俺もシナノも家に置いて来たからな・・・」

時風

「ここには時計はありませんよ全員懐中時計でしたからね」

ヒ
ユ
ウ
ガ

「なら晩飯もまだなのか」
？

大和・シナノ・時風

「『そう言えば……』」

**グギ
ユルルルルルルルルルルルル**

三人の腹から威勢よく空腹の金が鳴った。

4
人

「……プツハハハハハハハハ」

！！！！

4人は顔を見合わせておおいに笑った。

ヒュウガ

「しょうがない俺が作るから・・・時風さん厨房無い」？

時風

「それなら私の中にありますよ」

ヒュウガ

「・・・艦のほうだね」？

時風

「当たり前です」！！！！

ヒュウガ

「作者うるさい」

他にどこがある？

へいへい・・・話がずれた。

時風

「今、階段持ってきます」

そう言って時風は階段を探しにいった。

大和

（そういえば時風の本体の中には始めて入るな・・・）

シナノ

「ヒュウガの料理おいしいんだよねー早く食べたいなー」

大和

「献立は何だ」？

ヒュウガ

「今ある材料が人参と玉葱と牛肉とジャガイモとトウモロコシとカレーのルウと米」

大和

「カレーか」？

シナノ

「用意が整いすぎてると思うけどまあいいか」

時風

「大和さ〜ん階段もって来ました〜」

大和

「お、ありがとう時風」

時風が車輪付きの階段を持って来て、

それを大和とヒュウガが時風の舷側につけた。

すると、時風が張り切って階段を駆け上がり艦の上で敬礼をしていた。

時風

「ようこそ駆逐艦時風へ」！

次回へ

第十話 家出少年の紹介？（後書き）

ご意見感想お待ちしております。

第十一話 時風の案内(前書き)

登場人物紹介

(矢野ヒュウガ)

役職 中学生

出身岡山県岡山市

年齢(2010年8月現在) 12歳

身長156・9センチ

体重42・1キロ

誕生日3月23日

家族構成 父〔闘気〕 母〔雪花〕(行方不明) 兄〔天和〕 姉〔シナノ〕

好きなもの 料理 弓矢 大和 シナノ 旧海軍 架空兵器 海

上自衛隊艦船

嫌いなもの 初代の戦車(嫌いというか苦手)

艦船や航空機などに描かれているシャークペイント

大和とシナノの弟

シナノとは双子(姉がシナノで弟がヒュウガ)

料理技術は高い

大和と同じで旧海軍がすき

密かに歌の練習をしている。

第十一話 時風の案内

時風

「ヒュウガさんここが厨房です」

前回大和の弟ヒュウガが穴に落ちてきて矢野家三兄弟がそろった。
しかもヒュウガにも艦魂が見えていた。

ヒュウガ

「ありがとう時風さん」

大和

「しかし・・・綺麗だな・・・」

シナノ

「てっきり錆び付いていると思ったんだけど・・・」

時風

「私がいつも掃除していたからです」

ヒュウガ

「でも・・・65年間誰にも見つからず手もつけていないのに
船体もここまで綺麗だと少し不気味だな・・・」

大和

「軍艦防波堤もここまで綺麗じゃあなかったぞ」

時風

「軍艦防波堤」 ????

シナノ

「後で説明してあげる」

グギユルルルルルルゝ・・・

また誰かの空腹の鐘が鳴った。

全員大和のほうを見た。

ヒュウガ

「兄さん・・・どんだけ腹減っているんだよ」

苦笑いしながらヒュウガが聞いた。

大和

「いやゝ朝からカロリー〇イトしか食べてないし
スポーツドリンクしか飲んでないんだよ」

ヒュウガ

「今から作るから皆は出ていて」

シナノ

「何分ぐらいかかりそう」？

ヒュウガ

「うゝん・・・約1時間くらいかな」？

時風

「それまでに艦の中を案内しましょうか」？

シナノ

「時風ちゃんにさんせい」

大和

「じゃあ俺も付いていくからヒュウガここは任せた」

ヒュウガ

「それはいいけど・・・カレーが出来たらどうやって兄貴達を呼ぶの」？

時風

「そこに直通電話があるんでそれでかければいいです」

シナノ

「それじゃあ行ってきましたーす」

そう言って厨房を後にする三人。

時風は大和とシナノに駆逐艦時風の重要部分を見せて回った。

艦橋 艦長室 主砲内部 兵員室 通信室 機関室 など・・・

大和

「すごいな・・・今まで旧海軍の駆逐艦の内部は雑誌の写真でしか見たことないからな」

シナノ

「ねえ・・・時風ちゃん、弾薬なんて積んでないよね」？

時風

「へ・・・ありますよ」

大和・シナノ

「「え・・・あるの・・・弾薬」」

そう言って時風は二人を弾薬庫に連れてきた。

大和

「・・・すごい数だな」

大和とシナノの前におびただしい数の弾薬が置かれていた。

シナノ

「誘爆したら大変そう・・・」

時風

「恐ろしいことを言わないでくださいよシナノさん」

時風が冷や汗をかきながら言った。

大和

「時風、何発あるか分かるか」？

時風

「えーと・・・確か91式駆逐艦用徹甲弾が220発と3式対空砲弾240発と

5式試作近接対空砲弾160発と機関銃弾40ミリと25ミリ合わせて2万4120発と
酸素魚雷が24本と爆雷が100個ぐらいあります」

大和

「ちょ、ちょっと待って今91式甲弾で言ったか」？！

時風

「ええ、言いましたけど・・・何か」？

大和

「91式徹甲弾は元々大和型戦艦専用砲弾なんだよ」

時風

「そうなんですか」！？

大和

「それに今近接対空砲弾で言った？旧日本軍がVT信管を開発した

なんて
聞いたことがないんだけど・・・」

時風

「ここでは新型兵器の開発もされていたんですその、
ぶ、ぶ、ぶいていー信管でしたっけ？」

その砲弾は我海軍の2式大艇に不発が命中してめり込んでいたのを
ここに

持ち帰りここで研究しましたその後1945年8月1日に試作が完
成しました

ためし撃ちをしようとしたら迷ってきた米軍の艦載機2機がここに
来ました

この上に配置していた高角砲で試し撃ちをしたら
見事に成功して2機の艦載機は落ちていきました」

大和

「日本がVT信管を開発しているとはな・・・」

シナノ

たかしろう

「さすが鷹松中学校旧日本軍研究同好会部長

学校では海軍知識は1、2を争う知識・・・専門すぎて何が何やら
分からない」

3人が話していた時・・・

ジリリリ~~~~ン

近くの直通電話のベルが鳴った。

ガチャッ

その電話を大和が取った

大和

「はいこちら人生お悩み相談会会長大和ですけど本日はどんなお悩みで」？

ズデデデデデデデ~~~~ン!!!!!!!!!!!!!!

時風とシナノがこけた。

電話の向こうからもこける音がしたから。

ヒュウガもこけたのだろう。

ヒュウガ

「・・・ふざけるなら切るぞ兄貴」

大和

「いやゝすまない所で用件は何だ」？

ヒュウガ

「カレーが出来たからすぐに戻って来い。以上連絡終わり」

ガチャッ

そう言うヒュウガは電話を切った

大和

「カレーが出来たから戻ってこいだって」

シナノ「本当！？早く行こうよ」

時風

「シナノさんはしゃいでますけどそんなにヒュウガさんの料理はおいしいんですか」？

シナノ

「うん、そうだよだってヒュウガは岡山県中学校料理コンテスト第1位なんだよ」

時風

「そうなんですか」！？

大和

「そうだよ、ちなみにシナノは岡山県スポーツチャンバラ大会第3位の实力で俺は1位なんだよ」

時風

「すごいですね・・・」

次回へ

[illegible]

とね背骨と肋骨骨折 W W W

第十二話 全員睡眠・・・？

全員

『いただきます』！！！！

前回、大和 時風 シナノはヒュウガのカレーができるまで
時風内部を探索し旧海軍の試作砲弾を大量に発見した。

パクッ

時風

「ん~~~~！！！！おいしいです〜」！！！！

シナノ

「ヒュウガの作る料理はおいしいでしょ」？

大和「うん、最近のより格段にうまくなってるな」

ヒュウガ

「そんなに褒めても何も出ないぞ、本当は1日たってから食べた方がいいんだけどな

今回の自分での評価はまあ100点満点中70点ぐらいかな」？

時風

「そんなことはありませんよ！！！！これはもう満点ですよ満点」！！！！

大和

「え、えらく気に入ったようだな時風」

時風

「こんなにおいしいカレーは大日本帝国海軍でもありませんよ本当に」！！！！！！！！

興奮する時風をシナノがなだめる。

シナノ

「と、時風ちゃん落ち着いて」！！！！

そうシナノが言うとはっと我に帰る時風。

時風

「はっ・・・すす、すいません取り乱してしまって・・・」

頬を少し赤らめて恥ずかしがりながら謝る時風を大和がなだめる

大和

「いやいや、俺の友人もヒュウガの料理食べて『うますぎるー』！！って

言いまくっていたからな」

ヒュウガ

「それが原因で、『俺の家の料理人になってくれー』！！！！って拉致られかけたぞ」

苦笑いしながらヒュウガが言った。

時風

「俺の家って・・・大和さんのお友達にはお金持ちでもいるんですか」????

時風が冗談で言ったら・・・

矢野家三兄妹

『何でいるの分かったの』????

時風

「本当にいるんですか」!!!!????

時風がその場から立ち上がって驚いた。

大和

「あ、そうか・・・時風にはまだ言ってなかったな」

時風

「ふえ？それどういうことですか」？

時風が聞こうとしたがこれはまた今度になるだろう
なぜなら・・・

シナノ

「ふぁ~~~~・・・眠くなっちゃった・・・」

ヒュウガ

「え〜っと今の時間は・・・午後10時20分だな」

大和

「もうそんな時間か・・・」

シナノ

「そういえば時風ちゃんこの艦ふねシャワーついてる」？

時風

「あるにはあるんですが・・・お湯が出ませんよ」

ヒュウガ

「ボイラーに火を入れればいいんじゃないか」？

大和

「それは駄目だヒュウガ」

ヒュウガ

「何でだ？兄貴」？

大和

「密閉した室内で煙を出すと一酸化炭素中毒で死ぬからだ」

ヒュウガ

「あ、そうか・・・やらなくて良かった・・・」

ヒュウガが冷や汗をかきながらいった。

シナノ

「なら今日はお風呂無しか・・・まあいいか」

ヒュウガ

「ならもう寝る」？

時風

「なら寝室へ案内します、ついてきてください」

大和

「行くぞシナノ、ヒュウガ」

シナノ・ヒュウガ

「「はーい」」

全員立ち上がって厨房を後にした。

・・・数分後・・・

時風

「あ、部屋は分けた方がいいですよね」？

時風が三人を寢室の前に連れてきて振り返って言った。

シナノ

「あ、私は一緒の部屋でいいけ・・・」

大和・ヒュウガ

『断固別々で』!!!!!!!!!!!!!!

突然大きな声を出して相部屋を拒む男子陣

時風

「は、はい、なら大和さん達はそっちの水兵室には行ってください
ベットのシーツはちゃんと置いてあるんで」

ヒュウガ

「あ、ありがとう時風さん、じゃ、じゃあ先に入ってるからな兄貴」

大和

「ああ、分かったよヒュウガ・・・時風、ちょっと・・・」

時風

「はい、？何ですか大和さん」？

そう言って時風に耳打ちして言った

大和

「（いいか時風今日寝る時は服のボタンか紐はきっちりつけて置いた方がいいぞ）」

時風

「（な、何ですか）」？

シナノ

「何してるのお兄ちゃん」？

大和

「じゃ、じゃあ俺は寝るからなおやすみシナノ、時風」

時風

「おやすみなさい大和さん、ヒュウガさん・・・（何で冷や汗欠いてあんなに拒んだんだろう）」？

ガチャッ、

シナノ

「うわぁ・・・広い部屋だね時風ちゃん」

その部屋は駆逐艦では珍しくとても広い部屋だった。

真ん中には何かを置くための台がある。

時風

「私が寝室として使っている部屋ですが・・・前は何の部屋か分かりません・・・

あ、シナノさんはそちらのベットを使ってください」

シナノ

「うん、ありがとう時風ちゃん」

そう言ってベットに寝転がるシナノ

時風

「それじゃ電気消しますよ」

髪留めをはずした時風が言う。

シナノ

「うん・・・おやすみ時風ちゃん」

時風

「おやすみなさい」

そう言ってベットのの上に寝転がる時風

時風

「（今日は久々に人に会えたな・・・それに大和さん、カッコイイしな）」

カチッ

・・・女子就寝・・・

一方男子陣は・・・

ヒュウガ

「なあ兄貴・・・時風さんにちゃんと言ったか」？

大和

「いや・・・全部言うところでシナノが来たから逃げてきた」

ベットの上で話す二人・・・

ヒュウガ

「どうする？・・・明日には時風さん屍みたいになっちゃったら俺
しらないよ」

大和

「もう考えない方がいいぞヒュウガ・・・」

ヒュウガ

「それもそうだな・・・おやすみ兄貴」

大和

「おやすみ、ヒュウガ・・・」

男子も就寝・・・

次の朝・・・

時風

「キヤアアアアアアアアアアアアアアアア」!!!!!!!!!!!!!!

突然、悲鳴が聞こえヒュウガと大和はベットから飛び起きた。

ヒュウガ

「うわ!!!!!!!!!!な、何だいったい」!!!!!!!!???

大和

「時風の部屋からだ!!!!!!!!行くぞヒュウガ」!!!!

そう言って大和とヒュウガは隣の時風の部屋に駆け込んだ。

バンッ!!!!!!!!!!!!!!

大和・ヒュウガ

「大丈夫か（ですか）！！？？時風（さん）」！！！！！！！！

二人はドアを蹴破って中に入った

しかし二人は後に後悔しただろう

時風

「へっ・・・・・・・・」？？？

大和・ヒュウガ

「へっ・・・・・・・・」？？？？？？？

時風はなぜか水兵服の上がなくなっており
上半身丸裸の状態なのだ・・・

「ブツ
ー
ー
ー
ー
ー
ー
ー
ー
ー
ー」
「!!!!!!!!!!!!!!」

「がはっ・・・」

「ひつ・」

「ふあゝゝゝゝ……おはよ……えええ!!!!何!何なのこの状況」

!!!!!!

時風を襲った容疑者が起きた。

今日この日少年二人が大人の階段を上った
(笑)

次回へ

第十二話 全員睡眠・・・？（後書き）

ご意見・感想お待ちしております。

第十三話 緊急事態発生!?(前書き)

今回短めだと思います・・・

第十三話 緊急事態発生!?

時風艦内食堂・・・

大和「・・・・・・・・・・・・・・・・」

時風「・・・・・・・・・・・・・・・・」

ヒュウガ「・・・・・・・・・・・・・・・・」

シナノ「・・・・・・・・・・・・・・・・」

前回

大和・時風・シナノ・ヒュウガの4人は睡眠したが時風が悲鳴をあげて起きて大和とヒュウガが慌てて入ったら時風が上半身全裸の状態だった。

・・・何故か気まずい空気が食堂にはっていた
この気まずい空気を吹き飛ばしたのは・・・

シナノ

「あの・・・本当にごめんさない・・・」

ヒュウガ

「・・・姉さんも少しは自重してくれ」

大和

「その夢遊病まがいの寝相何とかならないのかシナノ」？

鼻にてティッシュを付けている大和が言う

時風

「えっ！？寝相ですか・・・あれが・・・」

まだ顔を真っ赤にしている時風が言う

ヒュウガ

「はい・・・自分も昔被害にあってます・・・（涙）」

シナノ

「本当にごめんなさい・・・いつもこの癪治そうって思ってるんだけど

何でか直らなくて・・・本当にごめんなさい・・・」

目に涙を少し溜めながら泣くシナノ

時風

「し、シナノさん！泣かないでください・・・私はただ少し驚いただけですから」

シナノ

「ひぐっ・・・本当」？

時風

「はい・・・こんなに面白い事初めてです（少し恥ずかしかったけど・・・）」

大和「・・・（あれが面白かったのか・・・）？まあ時風も許してくれてるし
俺とヒュウガも怒ってないよなヒュウガ」？

ヒュウガ「あ、ああ俺も怒ってないよ兄貴（ただ気絶しただけだからな・・・）」

シナノ

「うん・・・ありがとう・・・」

これにてシナノ・時風の衣服脱がし事件解決（笑）

ヒュウガ

「ならカレー温めるから少し待っててくれ・・・」

時風「待って下さいヒュウガさん」！

突然、時風が大きな声を出して椅子から勢いよく立った

大和

「ど！どうしたんだ時風！？何かあったか」？

時風

「・・・誰かここに入ってきます・・・数は2、30人前後います」

シナノ

「えっ！それって本当」？

時風

「はい・・・しかも完全武装してます」

ヒュウガ

「武装してるって」！？

大和

「ちよっ、ちよっと待て時風なんでお前そんな事分かるんだ」！？

時風

「私たち艦魂の能力です・・・他の艦魂は違う能力ですけど私は透視能力を持っています・・・」

大和

「ん？じゃあ俺の時も透視能力を使えたんじゃないのか」？

時風

「・・・その時はお昼寝してました」

時風が頬を少し赤らめながら言う

ヒュウガ

「どどど・どうする兄貴・・・」

シナノ

「見つかったら・・・口封じで殺されちゃうのかな・・・」？

大和

「落ち着け二人とも・・・時風武装はわかるか」？

時風

「多分・・・短機関銃と手榴弾を持ってます」

大和

「・・・なんでそんな重装備なんだ」？

ヒュウガ

「兄貴・・・どうする・・・」？

シナノ

「お兄ちゃん・・・」

大和

「・・・二人はどこかに隠れている・・・俺は向こうが入ってきて攻撃してきたら応戦する・・・」

時風

「大和さん私も手伝います」！

大和

「分かった・・・時風40ミリ機関砲の弾丸持って来てくれるか」？

時風

「はい！すぐに持って来ます」！

そう言って時風は転移した

大和

「さて・・・どう対応するかな」？

次回へ

第十三話 緊急事態発生!?(後書き)

ご意見感想お待ちしております。

第十四話 少年の戦闘!?

大和

「・・・俺一人だと右の機関砲しか使えないから時風は弾丸を装填してくれ」

時風

「了解しました・・・ですけど本当に応戦するんですか大和さん」？

大和

「向こうが撃って来たらの場合に応戦するよ・・・」

前回

シナノ服脱がし事件を解決した後

時風の透視能力で武装集団？がこのドックに

入り込んでくる事はわかり大和・時風は応戦準備に入った

時風

「……でも……なんでここに武装して入って来るんでしょうか」
？

大和

「いや……俺にも分からない……ところで時風……
今武装集団は何してるかわかるか」？

ガシャンッ！

そう言って40ミリ機関砲に16発カートリッジをセットする大和

時風

「待ってください調べます……」

そう言って時風が目を瞑った

時風

「・・・今一人降りて来ます・・・武装はしています」

大和

「了解・・・」

そう言って大和は40ミリ機関砲を穴の方に向けた

時風

「・・・そろそろ来ます」

大和

「・・・」コクッ

静かにうなづく大和・・・

そして・・・

ポフンッ!

??
1

「ゴホッゴホッ・・・いやに埃が多いな・・・あれ? 電気がついてるぞここ・・・」

穴から目だし帽をかぶった男が一人降りてきた

無線

「飛燕1 どうした? 何かあったか」?

??
1

「こちら飛燕1 例の文章のとおりここに駆逐艦があったぞだが電気が最初からついているから多分人がいる可能性がある」

無線

「了解した飛燕1・・・私みずから降りて指揮にあたるからそこで待機してて」

??
1

「了解しました隊長……でも、なんで電気がついてるんだ」？

そう言って?? 1が歩き出そうとしたその時

大和

「動くな」！

??
1

「んっ」!?

大和は先手を取り??に銃口を向けた

??
1

「なっ……何でここに子供?がいるんだ」？

?? 1はとっさにポケットに手を伸ばしたが

ダンッ！

大和

「動くなと言ったはずだぞ」！

大和は40ミリ機関砲を1発??の足元に撃った
?? 1の足元からは40ミリ機銃弾痕が残っていた

時風

「(うわゝ・・・大和さん怖い・・・どこで機関砲の撃ち方覚えた
のでしょうか)」

無線

「どうした飛燕1何があった!?銃声がしたぞ」!?

?? 1の無線から声がする

??
1

「飛燕1から！基龍へ！駆逐艦に少年がいる早く降りて来てくれ」！

??
2

「もうついてるわよ」

??
1

「隊長！いつのまに」！？

穴からもう一人降りてきた
声や口調からして女だ。

大和

「・・・（くそ・・・先手は撃ったがこの後どうしようか・・・）
その二人動かないで武装を降ろしてもらおうか・・・」

??
2

「・・・や・・・大和」？

?? 2が大和の顔を見るなりが驚いた

大和

「!?!?・・・どうして俺の名前を知っている」?

時風

「へっ!?!?・・・何で大和さんの名前を知ってるんですかあの人・・・」

?? 1

「た、隊長・・・まさかあの少年は・・・」

?? 2

「ええ・・・そうよ・・・あの子は・・・」

そういいながら?? 2が目だし帽を取った
その下にあった顔は・・・

??
2

「あの子は・・・私の息子だから・・・」

大和

「っ!?!?・・・か、母さん・・・」?

次回へ

第十四話 少年の戦闘!?(後書き)

ご意見感想お待ちしております

第十五話 矢野三兄妹の母降臨

大和

「っ！？・・・か、母さん」！？

時風

「えっ？・・・えっ！？大和さんのお母さん」！？

雪花^{せつか}

「半年ぶりね大和・・・元気だった」！？

前回

大和と時風は武装集団？？に対し先手を少し打ったが
その武装集団？？の隊長は大和の母だった・・・

大和は40ミリ機関砲から降りて走って
雪花のところに駆け寄った

大和

「母さん・・・だよな？・・・本当に・・・母さんだよな」？

大和は声を震わせねがら言う

雪花

「ええ・・・あなたの母親、矢野雪花よなんでこんな所にいるの大和」？

大和

「・・・父さんと喧嘩して・・・家出した」

雪花

「そう・・・またしょうもない事で喧嘩したんでしょ闘気さん
いっつもそうだからね・・・貴方のお父さんは」

大和

「母さん・・・単刀直入に聞くけど・・・この上にいる特殊部隊みたいな人達誰」？

雪花

「あら？なんで知ってるの？・・・この駆逐艦時風の艦魂の能力かしら」？

大和・時風

「「えっ」」！！？？？

雪花の言葉で大和と40ミリ機関砲の後ろに隠れている時風が驚いた

大和

「も・・・もしかして母さんも・・・」？

雪花

「ええ私とこの人も見えてるわよ艦魂が・・・そこの40ミリ機関砲から水平帽が丸見え」

時風

「ふえ！？見えてますか大和さん」！？

大和

「丸見え・・・」

雪花にも艦魂が見えていた

（なんで矢野家の人間は艦魂が見えるんだ？・・・）

雪花

「ところで私の配下の隊員全員ここにおろしている」？

大和

「いいけど・・・もしかしてあの隊員ってうちの陸上警備隊か」？

? ? ? 1

「ご名答ですよ大和坊ちゃん」

いままで黙っていた男が目だし帽をとりながら言った

大和

「っ! ? 爺や! ? 正晴爺やまで来てたのか」! ?

正晴
まさひろはる

「お久しぶりです大和坊ちゃん半年ぶりですね」

目だし帽子の下にあった顔は60代くらいのお爺さんであった

時風

「えっ? . . . えっ! ? どどど、どう言う事ですか大和さん」! ?

時風は大和に聞こうとしたら . . .

ヒュウガ

「あ、兄貴・・・もう出ても大丈夫か」？

シナノ

「さっき銃声したけど大丈夫だよねお兄ちゃん」？

二人が艦橋の扉から出てきた

雪花

「へっ！？シナノ！？ヒュウガ！？あなた達もここにいたの」！？

シナノ・ヒュウガ

「「か・・・母さん（お母さん）」！！！？

驚く二人と母親・・・

シナノ

「お・・・お母さ～～～ん」

時風からラッタルを走って降りて雪花に泣きながら抱き着くシナノ

雪花

「シナノ……貴方もここに来てたの」？

シナノ

「……お母さん……半年も……どこに行ってたの……」

雪花

「あらあら、この年になったら泣かないっていったでしょ」？

ヒュウガ

「あれ？……難波さんもいるじゃん」

正晴

「お久しぶりですねヒュウガ坊ちゃまにシナノお嬢様」

時風

「え？えっ！？……これってどう言う事ですか大和さん」

どういった状況か分からない時風がすこし慌てている

雪花

「あら？まだ貴方の事を話してなかったの大和」

大和

「あ、うん・・・話そうかな〜と思ってた時に母さん達が来たから・
・・

時風・・・実はな・・・」

時風

「へっ？・・・実は・・・何ですか大和さん」？

少し渋りながら大和は・・・

大和

「実は・・・俺は矢野陸海警備会社の社長の息子・・・つまり御曹
司なんだよ・・・」

時風

「へっ・・・大和さんが警備会社の御曹司」！？

次回へ

第十五話 矢野三兄妹の母降臨（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております

第十六話 時風型駆逐艦の任務・・・

時風

「大和さんが・・・御曹司」？

前回

謎の武装集団の正体は大和の父が経営する
警備会社の社員であり大和は自分が
その会社の御曹司だと時風に話した

大和

「ああ・・・矢野^{やの}陸海警備会社の
社長の息子だ・・・あまり話たくなかったんだけどな・・・」

シナノ

「何でなのお兄ちゃん」？

涙を拭きながらシナノが聞いてきた

大和

「・・・いや・・・なんと言うか・・・恥ずかしいというか」

少し恥ずかしながら言う大和

ヒュウガ

「そんな恥ずかしがるものじゃあないでしょ兄貴」

正晴

「そうですよ大和坊ちやま」

大和

「他の理由もあるんだよ・・・」

雪花

「あら？他の理由って何？大和」

雪花が聞くと、大和は少し暗い顔になって小声で言った

大和

「・・・変な目で見られたくなかったからだよ母さんなら分かるだろ」？

雪花

「・・・まあ確かに変な目をしてくる人とかいるからね」

シナノ・ヒュウガ

「お兄ちゃん（兄貴）の気持ちよくわかるよ（ぜ）・・・」

時風

「・・・大丈夫ですよ大和さん」

そう言って時風が大和の手を握った

大和

「・・・と、時風」？

時風

「大和さんが会社の御曹司でも私は大丈夫です」

大和

「ありがとう・・・時風」

雪花

「・・・（半年いない間に少しは成長したわね大和）・・・
こちら列空1全員降りて来ていいわよこの旧海軍が
開発した特攻駆逐艦を早くここからださないと・・・」

大和・時風

「「へっ？・・・いまなんて言った（いいました）」？？」

雪花の言葉に真っ先に食いついたのは大和と時風であった。

雪花

「ん？旧海軍の開発した特攻駆逐艦を早くここから出さないと・・・

」

大和

「ちょ、ちょっと待ってくれ母さん！時風が特攻駆逐艦ってどう言う事だよ」！？

時風

「え・・・私が・・・特攻駆逐艦？・・・」

雪花の言葉に時風と大和は驚いた

シナノ

「え？なんなの特攻駆逐艦って」？

ヒュウガ

「特攻駆逐艦ってのは旧海軍の神風特別攻撃隊
みたいな任務をこなす駆逐艦・・・だと思うよ姉さん」

一人だけ話に付いていけないシナノに説明するヒュウガ

雪花

「大和・・・私が半年間いなくなったのはこの
時風型駆逐艦3隻とこの艦に積まれるあるものを探したのよ
それであな達には旅行と行って時風型を探してたのよ」

時風

「あの・・・あるものってなんですか」？

まだ驚きを隠せない時風が声を少し震わせながらいった

雪花

「・・・貴方にはショックが大きいかもしれないけど・・・話していいの」？

時風は静かにうなずいた。

雪花

「・・・あなた達時風型駆逐艦は・・・この岡山の人形峠で開発された

原子力爆弾を各時風型に1発ずつ積み込んで使者を乗せていると情報を言って

油断した米艦隊のど真ん中で爆発させる・・・その原子力爆弾の運搬専用に

開発されたのが特攻駆逐艦・・・時風型よ」

時風

「っ！？・・・原子力・・・爆弾・・・」！？

大和

「なっ！？何だって！？原子力爆弾！？今原子力爆弾って言ったか」

！？

シナノ

「げ．．．原子力爆弾って．．．」

ヒユウガ

「約半径4キロを壊滅させられる爆弾だよ姉さん」

次回へ

第十六話 時風型駆逐艦の任務・・・（後書き）

登場人物紹介

やのせつか
矢野雪花

出身 岡山県岡山市

年齢 （2010年現在） 35歳

髪型 ショートヘアー

身長 172センチ

体重 52・4キロ

誕生日 8月15日

家族構成 夫（鬨気）息子（大和・ヒュウガ）娘（シナノ）

好きなもの・旧大日本帝国海軍・家族・会社の社員

嫌いなもの・書類整理・ゴキブリ

大和・シナノ・ヒュウガの母親

半年間行方不明になっていたのは旧海軍の特攻駆逐艦を

探すために資金集めをしていた

過去に20歳で海上自衛隊に入隊していた過去を持つ

なお身体能力はふつうの人よりずば抜けている

大和とヒュウガが旧海軍好きになったのは雪花のおかげである

なんばまさはる

難波正晴

出身 岡山県岡山市

年齢 （2010年現在） 68歳

身長 174センチ

体重 64キロ

誕生日 4月7日

家族構成 妻・息子2人・孫4人

好きなもの・矢野家・大和・シナノ・ヒュウガ・鬨気・雪花・旧海軍戦闘機

嫌いなもの・虫・矢野家に害をなすもの

矢野家に仕える執事で矢野家に40年仕えて来ている

矢野家には絶対的な忠誠を誓っている

その為身体能力など雪花と同等であり

矢野家に害をなそうとするものは必ず成敗される

その反面・大和・シナノ・ヒュウガにはとてもやさしい
なおヒュウガが料理好きになったのは彼のお陰である

ご意見ご感想お待ちしております

第十七話 時風の妹達は健在？

時風

「げっ……原子力爆弾……」

雪花

「ええ……原子力爆弾よ……旧日本軍が研究開発してたけど研究は打ち切りされ原爆は開発されなかった……ってのは表向きの話
裏の話では人形峠の近くの地下に研究開発施設を作って完成させたの」

前回

雪花が半年間行方不明になっていたのは
時風型駆逐艦と原子力爆弾を探していた為であった
時風に貴方は特攻駆逐艦と雪花は告げた

大和

「・・・ちよつと待ってくれよ母さん」

雪花

「ん？どうしたの大和・・・」？

大和

「いや・・・時風のどこに原子力爆弾を塔載するんだどう見ても置ける場所がないぞ母さん」

ヒュウガ

「しかも駆逐艦に原爆って・・・かなり小型にしないと無理だぞ」

大和とヒュウガが雪花に疑問をぶつけた
すると雪花は・・・

雪花

「じゃあ・・・時風さん艦の方に上がっていいかしら」？

時風

「え？・・・ええ、いいですけど・・・」

雪花

「じゃあ上がらせてもらうわ・・・難波さんは私営隊をここに下ろして指揮しといて」

正晴

「はっかしこまりました雪花様」

大和

「母さん・・・何をするつもりだ」？

雪花

「まあ黙ってついて来なさい」

そう言って時風に乗艦する雪花と時風と大和

数分後・・・大和と時風は雪花に付いて行った

雪花は時風の艦内を迷わず歩いている

時風

「あ、あの・・・雪花さんはなんで私の艦内がわかってるんですか」
？

時風が不思議そうに雪花に聞いた

雪花

「ああその事ね・・・時風ちゃんは自分に妹がいる事してる」？

その言葉に時風が声を弾ませた

時風

「はっ、はい！知ってます！知ってますけど……いるかどうか……」

大和

「待てよ……母さんのその言動からすると……」

雪花はクスツと笑いながら時風に言った

雪花

「ええいるわよ時風さんの妹の時波と時がね」

時風

「ほっ、本当ですか雪花さん」！？

雪花

「ちゃんというわよ・・・艦魂の時波と時にも会ってきたからね」

大和

「よかったな時風ちゃんと妹がいて」

時風

「はい！よかったです」！

雪花

「はいはい時風ちゃんの妹達の話はあとですから・・・ついたわよ」

そう言って雪花はある部屋のドアを開けた
そこは・・・

時風

「あれ・・・ここは私の寝室ですよ」

その部屋は時風が寝室に使っている
駆逐艦にしてはかなり広い部屋だった。

雪花

「えっ？ そうなの・・・時波と時もここを寝室に使ってたからビツ
クリしちゃった」

大和

「（・・・時風の妹達もかよ）」

大和は少し呆れながらそう思った。

雪花

「えっと・・・あ！ あった」！

そう言って雪花は時風の寝室の壁にあるボタンを押した
すると・・・

ガコンツ・・・キュイイイイイイイン！！！！

時風

「ななななな、何ですかこれは」！？

大和

「時風！上を見ろ上を」！

そう言って大和と時風は上を見上げた
すると天井がパカッと開いていく
そこへ・・・

ヒュウガ

「あ、兄貴！時風の第1魚雷発射管の天井が開いていくぞ」！

シナノ

「何が起こっているのお母さん」！？

時風

「まさかここに原爆を・・・」

雪花

「ええそうよこの上の魚雷発射管は擬装していて
本来は原爆を搬入する為のハッチなのよ」

大和

「まじかよ・・・」

次回へ

第十七話 時風の妹達は健在？（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております。

第十八話 お爺さんは研究員謙開発員

時風艦内食堂・・・

大和

「・・・で？母さんはどこで時風型駆逐艦の事知ったんだ？」

時風

「私の妹達はどこにいるんですか」？

シナノ

「なんでお母さんは時風ちゃんを探してたの」？

ヒュウガ

「時風型駆逐艦と原子爆弾を開発したのは誰か分かっているのか」？

雪花

「ちよちよ！ちょっと待ってよ皆！そんなに質問されても答えられないわよ」

前回

時風型に原爆を塔載する場所を探して

雪花は時風艦内で時風には妹がちゃんと存在する事を時風に話した
しかし原爆が塔載される場所は時風の寝室になる所だった

大和・時風・シナノ・ヒュウガ・雪花の5人は

時風艦内の食堂で雪花に質問していた

ヒュウガ

「だって半年間行方不明になってた理由を話してもらわないと・・・

」

雪花

「そ、それについてはちゃんと謝罪します・・・パクッ」

そう言ってカレーを食べる雪花

シナノ

「よく質問してる時にカレー食べられるねお母さん」

雪花

「だってヒュウガのカレー食べるの半年ぶりなんだもん」

大和

「・・・それより本題にはいろうぜ母さん」

飽きれるように頭に手を乗せながら言う大和

雪花

「分かったわよ・・・じゃあまず大和の質問から・・・」

そう言ってカレーを食べていたスプーンを置いて

雪花は話始めた

雪花

「えっと・・・時風型の事を知ったのは半年前・・・
家の中であなた達のおじいさん矢野菊雄^{やのきくお}の遺品を
整理していた時にこの駆逐艦時風型と原子力爆弾の資料が見つかったのよ」

ヒュウガ

「ん？なら開発したのはうちの菊爺ちゃんだって事か」？

雪花

「いや・・・菊雄儀父さんはただの研究員謙開発員だったらしいの
よ・・・

見つかったのは設計図と計画書と隠し場所の地図だけ・・・」

大和

「ふうりん・・・なら菊爺は時風を開発した研究員の一人ってわけ
か・・・」

時風

「でも研究員の人達は名札をつけていましたよ？その中に矢野さん
って名前の人は
いませんでしたよ」？

雪花

「菊雄儀父さんは時波の方で開発してたらしいのよ」

時風

「あつ、そうなんですか・・・」

雪花

「では時風ちゃんの質問・・・貴方の妹達は今矢野海上警備会社で保管してるわよ」

大和・ヒュウガ

「「へっ？今なんて言った母さん」？」

雪花の言葉に大和とヒュウガは驚いた

雪花

「だから時波と時はうちの海上警備会社で保管してるって言ったの」

大和

「ちょ、ちょっと待ってくれないか母さん親父は何も言わなかったのか」！？

雪花

「ああその事ね大丈夫よ私専用のドックに入港したからばれないわよ」

ヒュウガ

「あの入った人は生きて帰れないって言われてるドックにいたのかよ・・・」

シナノ

「お父さんも入って死にかけたって言ってたからね・・・」

冷や汗をかきながら言うヒュウガとシナノ
そこへ・・・

正晴

「雪花様、私営隊全員降りましたこれより作業にとりかかります」

雪花

「ええお願いね正晴さん」

時風

「？、何をするんですか雪花さん」？

そう時風が言っていると雪花は笑って答えた

雪花

「貴方をこの隠れ家からだしてあげるのよ」

次回へ

第十八話 お爺さんは研究員謙開発員（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております

第十九話 原爆開発責任者は？

大和・時風

「「へっ！？今なんて言った（言いました）」！？

雪花

「だから時風ちゃんここから出すっていつてるのよ」

前回

時風型駆逐艦の開発に大和の祖父が関わっていた事がわかり、時風型駆逐艦2番艦と3番艦の『時波』『時』は海上警備会社の雪花専用ドックにいる事を話す。

時風

「えっ！？出られるんですか雪花さん」！？

雪花

「ええ、その為にうちの海上警備会社の機関員を連れて来たのだから」

大和

「あの汗臭い連中かよ・・・」

大和が少し冷や汗をかきながら言う

雪花

「でも彼等がいないと時風ちゃんの心臓は動かないでしょ」？

時風

「ええー！ー！？私の心臓動いてないんですか」！？

雪花

「いや貴方じゃなくて艦の方よ・・・なんで時風姉妹は同じ所に食いつくのかしら」？

大和・シナノ・ヒュウガ

「「「（時風の妹達も一緒なの（かよ）・・・）」」」

そう言うお前らも同じ心の中のと突っ込み入れるなよ・・・

正晴

「では自分は25人を率いて機関始動を開始をいたします
残りの5人はハッチを爆破作業にはいります」

ヒュウガ

「あ、正晴さん俺もついて行っていいか」？

正晴

「はいよろしゅうございますよヒュウガ坊ちゃま」

シナノ

「私も行く」

正晴

「ではシナノお嬢様も参りましょう」

そう言って食堂をあとにする3人

大和

「じゃあ俺達は・・・」

雪花

「待って大和に時風ちゃん」

急に大和と時風を引き止める雪花

大和

「なんだよ母さん」？

雪花

「・・・時風ちゃん貴方の開発責任者の名前は分かる」？

時風

「へっ？確か・・・細川ほそかわほうりゅう法隆大佐っていう人ですけど・・・」

大和

「っ！？今細川って言ったか時風」！？

細川と聞いて大和の顔が変わった

時風

「は、はい細川法隆大佐っていいましたけど・・・」

雪花

「実はこの法隆大佐が原子爆弾と特攻駆逐艦を開発してたらしいのよ大和なら分かるはずよねこの名前……」

大和

「ああ……信矢のぶやの爺さんだ……家族そろってえげつない野郎だな」

時風

「えっと……誰ですか？信矢さんって？」

話について行けない時風が大和に聞いた

大和

「信矢ってのは俺の通っている鷹松中学校での同級生なんだが……

女子生徒にセクハラ行為するし下級生からかつあげするし

先生に暴力するし……俺の事をライバル視するし……

それなのに成績は最悪な野郎だ……

だけど誰も手出しできないから余計に腹が立つ……

あいつの親が学校に多額な資金をあげているから

誰も手出しできないし……

近づくとも隠し持ってるモーゼルC96大型拳銃の

ガスガン向けて撃ってくるからいやなんだよ・・・
俺の友人がそれで目を撃たれて1週間見えなくなったからな・・・
あいつの取柄は射撃と嫌がらせだからな・・・」

時風

「・・・いやな人ですね」

大和

「まあ・・・俺がこの備前長船永光で何回も気絶さした事があるからな」

次回へ

第十九話 原爆開発責任者は？（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております

第二十話 駆逐艦時風出航！

駆逐艦時風隠しドック、夜22時52分・・・

ドック内、時風艦橋

雪花

「・・・正晴さん準備はいいですか」？

直通電話で機関室に話す雪花

正晴

「はい雪花様、機関は順調に稼動しております」

時風

「・・・あのく雪花さん」

雪花

「ん？何？時風ちゃん」？

時風

「本当に私は出航できるのでしょうか・・・」？

前回

雪花は駆逐艦時風をこのドックから

出す作業を開始した

原子力爆弾と駆逐艦時風を開発したのは

大和の同級生の信矢の祖父だと判明した

雪花

「どうしたの時風ちゃん？・・・怖いのかしら」？

時風

「いえ怖くはないんですが・・・ただ・・・私の機関がちゃんと動くかどうか・・・」

外装は綺麗ですけどもしかしたら中身が駄目かもしれませんよ」？

少し暗い声で言う時風

ヒュウガ

「それは大丈夫ですよ時風さんさっき難波さんが点検したらそれほど問題はないって言ってましたから」

時風

「それならいいんですが・・・」

大和

「心配しなくても大丈夫だよ時風」

そう言って時風の横にくる大和

大和

「君の機関が動かなくても僕が引っ張ってもだしてあげるよだから安心してて時風」

その言葉に時風は笑みを浮かべた

時風

「・・・ありがとうございますそう言っていただけでうれしいです」

大和

「ああ・・・（あれ・・・なんで俺こんな台詞いったんだ）」？

何故か大和は顔が赤くなっている事に気がついていなかった

シナノ

「ねえお母さん・・・爆発音って大きい」？

雪花

「ああそう言えばシナノはあまり大きな音は苦手だったわね
大丈夫よただ爆竹を鳴らすような音だから」

シナノ

「それなら良かった」

そう言って雪花に抱き着くシナノ

ヒュウガ

「・・・（待てよ・・・昔母さんが爆竹作ってたけどあの爆竹確か
90式戦車のキャタピラひとつ破壊した噂があったような・・・）」
？

キャタピラ破壊できる爆竹で・・・

話がずれた

雪花

「正晴さん機関始動開始」！

正晴

「了解しました雪花様・・・機関始動」！

雪花

「火炎1爆破準備・・・」

火炎1

「はい！爆破準備完了してます」！

雪花

「・・・爆破」！

ドゴンッ！ドゴンッ！ドゴンッ！

ギギッ・・・ギギギイイイイ！！！！

にぶい爆発が3回続き隠しドックの

扉が鈍い音をたてながら開いた

雪花

「ここまでは大丈夫ね・・・正晴さん機関始動」！！！！

雪花が直通電話に向かって大声で叫んだ

正晴

「了解しました・・・機関始動」！！！！

ゴウンツ・・・ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ！！

正晴

「雪花様！機関順調に稼動しております」！

ボフンツ！

時風の機関がけたたましく音を出し

煙突から黒い煙が勢いよく舞い上がった

時風

「や、やりましたよ大和さん！私の機関がちゃんと動いてくれてます」！！

雪花

「まだまだこれからよ時風ちゃん・・・微速前進」！

隊員1

「微速前進ヨォーソオロォー」！

隊員の掛け声で機関員などがいろんなレバーやスイッチを押しまくっていたたかが31人でこの機関を動かすのも一苦労どころか不可能に近かったが・・・

ザザザア・・・

時風の船体はゆっくりと動き始め
時風が隠されていたドックを出航した
65年前の旧海軍の遺品が今出航したのである！

時風

「やったあゝ！動きましたよ！私走ってますよ」！

時風がツインテールを揺らしながら
ぴよんぴよん飛び回っている

雪花

「まだまだ・・・第1戦速」！！！！

隊員1

「第一戦速ヨォーソオロォー」！

ヒュウガ

「あれ？戦速って戦闘速度の事だよな？・・・
誰かと戦ってたっけ」？

キュイイイイイイイイイイイン！！！！

ザザザアアアアアアアア！！！！

ヒュウガの突っこみを無視して雪花の言葉で
時風の機関がけたたましく動き始めた

そして・・・

隊員2

「現在速度18ノット（約32キロ）に達しました」！

大和

「これが駆逐艦時風の力か・・・」

次回へ

第二十話 駆逐艦時風出航！（後書き）

ご意見感想お待ちしております。

第二十一話 狙われた時風

雪花

「ふう〜・・・ここまでは大丈夫ね」

大和

「ん？母さんがそんな事を言うとは・・・何かあったか」？

前回

時風が隠されているドックの扉を爆破して

時風の機関を動かし外に出る事成功した

65年間眠っていたのだが速度は18ノット（約32キロ）を出せれた

ヒュウガ

「それもそうだな・・・何か心配事でもあるのか？母さん」

シナノ

「心配事があるなら私たちに言ってみて・・・力になるからね」

雪花

「・・・大丈夫よみんな私はいつもどうりだから」

大和達がこんな会話している時

時風は艦橋の端っこの椅子に座っていた
だが少し様子がおかしかった。

時風

「・・・(何だろう?・・・なんか・・・嫌な違和感を覚える)」

大和

「どうした?時風?何かあったか?」

時風

「い、いえ・・・ただ・・・なんか変な違和感を覚えるんです」

雪花

「変な違和感」？

時風

「はい・・・なんと言ううか・・・殺気みたいなものを感じるんです」

大和

「殺気」！？

時風

「はい・・・少し怖いで・・・」

時風が最後まで言おうとした時・・・

バシヤアアアアアアアアアン！！！！

バシヤアアアアアアアアアアン！！！！

バシヤアアアアアアアアアアン！！！！

時風の周りで水柱が上がり時風に振動が走る

大和

「うおっ」！？

ヒュウガ

「うわあああああああああああ」！！！！

シナノ

「キヤアアアアアアアアアアアアア」！！！！

時風

「ひぐうつ」！

大和は何とか踏ん張っていたがヒュウガとシナノはこけてしまった

時風は少し痛がっていた。

雪花

「皆！大丈夫」！？

大和

「ああ・・・何とか・・・っ！？時風は大丈夫か」！？

時風

「わ・・・私は大丈夫です大和さん・・・お腹の辺りが少し痛いですけど・・・」

床にうずくまるように座っている時風

ヒュウガ

「俺は少し足を打ったけどなんとか大丈夫だ」

シナノ

「右に同じく・・・」

雪花

「正晴さん！そっちは全員無事ですか」！？

正晴

「はい雪花様！機関員は全員無事ですが機関に少しダメージがありまして

これ以上速度があがりません」！

雪花

「ちっ・・・また邪魔が入ったわね・・・」

大和

「はぁ！？それどう言う事だ母さん」！？

時風を抱えながら大和は雪花の横によった

雪花

「実は時波と時を私専用ドックに連れて行く途中にこんな事があったのよ

最初は時にサブマシンガンで攻撃してきて時波の時は私をスナイパーライフルで狙ったきたのよ・・・まさか今回はこんな重攻撃してくるとはね・・・
多分爆発からして手榴弾・・・と言うよりライフルグレネードね・・・」

大和

「・・・あの海岸沿いの崖から撃って来たよな？母さん」

雪花

「ええ・・・多分あの海岸沿いの崖から撃ってきたと思うけど・・・
貴方まさか・・・！」

大和

「ああ・・・俺が応戦する・・・なあくに
40ミリ機関砲10発も威嚇射撃すれば敵も退散すると思うよ」

時風

「大和さん・・・私も・・・手伝います」

雪花

「だめよ大和！この前は向こうがすぐに退散したけど今回はわからな……」

バシヤアアアアアアアアアン!!!

バシヤアアアアアアアアアン！！！！

バシヤアアアアアアアアアン!!!

雪花

「キヤツ」
「!!!!」

大和

「うおっ
と！！！！」

時風

「グ
ウ
ツ
・
・
・
」

大和

「時風！大丈夫か」
！？

時風

「大和さん・・・痛いすう・・・」

次回へ

第二十一話 狙われた時風（後書き）

ご意見感想お待ちしております

第二十二話 時風を守る為に！

大和

「時風！大丈夫か」！？

時風

「大和さん・・・痛いですう・・・」

大和

「くそっ・・・あいつらには情ってものがないのか」！

前回

時風は雪花専用のドックに向かっている

途中何者かに攻撃を受ける

船体損傷は軽微だが速力が上がらなくなってしまった。

大和

「くっ・・・俺は40ミリ機関砲で脅しをかける！

ヒュウガとシナノは時風を看病していてくれ

母さん達は操舵して弾等をかわしといてくれ」！

雪花

「大和！待ちなさ……」

バシヤアアアアアアアアアン!!!!

バシヤアアアアアアアアアン!!!

ドゴオオオオオオオオオン！！！！

雪花が大和を止める前に
水中に弾丸が落ちる音に混じって爆発音が響く

時風

「あぐうつ・・・」

ヒュウガ

「うわっ！なんだ」
！？

隊員

「雪花様！擬装魚雷発射管右舷付近に敵弾直撃！被害軽微で負傷者なし」！！！！

シナノ

「時風ちゃん！大丈夫！？・・・手から血がでてるよ」！

時風

「うう・・・こ、これくらい・・・大丈夫です」

雪花

「くっ・・・今だせる速力で回避行動をやってちょうだい」！

隊員

「了解！機関室！出来るだけでいい！機関出力をあげろ」！！！！

その頃大和は・・・

ガキンッ！・・・キリキリキリキリ・・・ガコンッ！

大和

「あそこから撃ってきてるんだな・・・」

艦橋前にある40ミリ機関砲に座って崖から撃ってくる
部隊に照準を合わせた・・・

大和

「・・・（さあ撃ってこい・・・発砲炎が見えたら
その下の崖に機関砲を撃って脅してやる・・・）」

大和は敵が撃って来るのを待った・・・

時風の機関音が唸っている

大和

「すーはあー・・・すーはあー・・・」

大和が呼吸を整える・・・

そして・・・

カッ！

カッ！

カッ！

大和

「見えたっ」！！！！

三つの発砲炎が見え

大和はその方向に機関砲を発砲した

大和

「時風は・・・時風は俺が守ってやるんだあああああああああ
！！！！」

ダン！ダン！ダン！ダン！ダン！

大和が発砲し崖に40ミリ機関砲が命中し
攻撃してきた部隊は慌てて撤退するのが
月明かりに照らされはつきりと見えていた

大和

「ふう〜これで一安し・・・いけねっ！弾等がまだだった」！

そう言って40ミリ機関砲を上空に向け落ちて来る弾等を狙った

大和

「・・・頼む・・・当たってくれ」！！！！

ダン！ダン！ダン！ダン！

バアアアアン！

バアアアアン！

バアアアアン！

大和は40ミリ機関砲

上空に4発続けて発砲し

敵の弾等は全部上空で爆発した

大和

「・・・何とか時風を守ったぞ」

次回へ

第二十二話 時風を守る為に！（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております。

第二十三話 夜の会話

大和

「何とか敵は逃げたぞ・・・時風は大丈夫か」！？

時風

「は、はい・・・手に少し怪我をしましたけど・・・」

前回

時風は正体不明の部隊に攻撃を受け

右舷に被弾したが大和が40ミリ機関砲で撃退し
空中で飛翔中の弾頭を撃ち落とすことに成功した

雪花

「まあ何とか撃退できたけど・・・何者かしらあいつら・・・」

シナノ

「そんな事どうでもいいから早くここからいなくなった方がいいと思うよ」

時風の腕に包帯を巻きながらシナノが言う

ヒュウガ

「俺もシナノ姉さんの意見に賛成だ・・・
それに時風さんの修理も早くしたほうがいいし」

雪花

「分かってるわよ・・・海上警備会社まであと何キロ」？

隊員

「あと6海里（約10キロ）くらいです」

雪花

「そう・・・これで時風型が全艦そろったわね」

大和

「母さん俺は外で風に当たってくるから・・・」

そう言って大和は外にでる

時風

「・・・・・・・・・・」

スクッ！

シナノ

「あれ？時風ちゃんどこに行くの」？

時風

「あ、私も大和さんについて行きます」

シナノ・ヒュウガ

「じゃあ俺も（私も）・・・」

ガシッ

雪花

「ヒュウガとシナノは残ってなさい（ニヤリッ）
行ってらっしゃい時風ちゃん」

二人の服の首根っこをつかむ雪花
顔はなぜかにやついている（なんでだ）？

時風後部主砲

大和

「・・・ふうく・・・40ミリの反動ってあんなにすごかったのか・
・・・」

主砲にもたれかかりながら座る大和
そこへ・・・

時風

「大和さん・・・」

大和

「おっ・・・時風・・・動いていていいのか」？

時風

「はい・・・さっき攻撃を受けた時よりか大丈夫です・・・隣いいますか」？

大和

「あ、ああ・・・いいよ」

そう言って大和の隣に座る時風

時風

「・・・先程はありがとうございます大和さん」

大和

「いや、いいんだよ時風お礼なんて・・・」

時風

「それに・・・」

大和

「それに」？

時風

「そ、それに・・・『俺が時風を守るんだあああああ！！！』
って言ってくれたのもうれしかったです・・・」

頬を少し赤らめながら時風が言う

大和

「あ、ああ・・・えっと・・・その・・・なんと言うか・・・
（うああああああ俺なんであんな事言ったのかが分からねえええええ！！！！）」

おい大和・・・お前の心の中はどうなっている？（by作者）

時風

「・・・守ってくださって本当にありがとうございます大和さん」

大和

「い、いや・・・君を沈めるわけにはいかないからね」

時風

「本当に・・・ありがとう・・・ございますう・・・」

ポンッ

そう言って時風が大和にもたれかかってきた

大和

「と、時風」！？

時風

「すうー……すうー……」

小さな寝息を立てて眠っている時風

大和

「さっきの事で疲れたんだな……よいしょっと」！

そう言って時風をお姫様抱っこして艦橋に戻った大和であった。

……余談だが何故か雪花の顔がにやついていたのは別の話である

次回へ

第二十三話 夜の会話（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております

第二十四話 雪花専用ドック

隊員

「雪花様、間もなく海上警備会社に到着いたします」

雪花

「了解したわ・・・さてと、無線はどこかしら」？

前回

正体不明の敵を撃退した後

大和は一人夜風に当たっている時に
時風が来て一緒に話をしたあと
艦橋に戻った

ヒュウガ

「それじゃないか？母さん」

そう言って無線に指を指すヒュウガ

雪花

「あつ、これね・・・こちら搜索部隊流星！
矢野海上警備会社聞こえる」！？

そう言って無線のマイクに話す雪花

無線

『ガガガ・・・キュイイイイン・・・こちら矢野海上警備会社
搜索部隊流星お帰りなさい・・・例の艦艇は見つかったようですね』

雪花

「ええ何とか見つかったわよ・・・途中でまた正体不明の部隊に
攻撃されて右舷を少しやられたわあと機関にも少しダメージが
発生してるけど明日修理するから今の内に修理部隊の準備していて

無線

『了解しました、では雪花様専用ドックを開放して置きます』

雪花

「お願いね〜・・・では無線連絡は以上です」

そう言って無線を元の場所に戻し椅子に座る雪花

雪花

「ふう〜・・・そう言えばヒュウガ時風ちゃんと大和はどこにいったの？」

ヒュウガ

「ああ兄貴なら時風さんを寝室に連れていったぜ」

シナノ

「でも時風ちゃん大丈夫かな・・・」？

ヒュウガ

「ん？なにが大丈夫かなんだ？姉さん」

シナノ

「寝てるのをいい事にお兄ちゃんが時風ちゃんに・・・・・・・・・・」

雪花・ヒュウガ

「「それ以上いっちゃ駄目」！！！！！！」

艦橋でこんな会話をしている時大和と時風は・・・

時風

「すうゝ・・・すうゝ・・・」

大和

「すうー・・・すうー・・・」

時風はベットの上で寝ていて

大和は備前長船永光にもたりかかりながら寝ていた

艦橋・・・

隊員

「雪花様！専用ドックが見えてきました」！

雪花

「よし・・・第一戦速から微速前進」！

隊員

「微速前進ヨォーソォロォー」！

ゆっくりと時風は前方にあるドックにゆっくりと入って行った

数分後・・・

隊員

「接舷完了しました雪花様」！

ヒュウガ

「じゃあ俺は兄貴を呼んでくるから母さんは先に行っててくれないか」？

シナノ

「あ、じゃあ私も行く」！

雪花

「じゃあちゃんと警備会社の受付から入ってきてよ」

そう言って艦橋を出る二人・・・

だが・・・

この二人は翌日大変な事になるのはまだ知らなかった・・・

翌日・・・

大和

「ふあゝ・・・今何時だ・・・って・・・もうついたのか」？

時風

「ふあゝ・・・おはようございます大和さん・・・ここはどこですか」？

大きなあくびをしながら二人が起床した

大和

「多分母さんの専用ドックだと思うよ」

時風

「あれ？・・・ついたのなら起こしてくれるはずですよね」？

大和

「うーん・・・シナノとヒュウガが多分起こしに
来てくれると思っていたんだがな・・・」

時風

「考えても始まらないですし、とりあえず外に出てみませんか」？

大和

「分かった一旦外に出て見よう」

次回へ

第二十四話 雪花専用ドック（後書き）

ご意見感想お待ちしております

第二十五話 少年侍VS女忍者!?

大和

「へえ、ここが母さんの専用ドックかあ」

時風

「す、すごいですね・・・私が居たドック以上にすごい設備です」!

周りにはいろいろな機械や整備車両

天井には大きなクレーンが垂れ下がっている

前回

駆逐艦時風は雪花専用ドックに到着したが

大和と時風はまだ時風の艦内に取り残されたままだった。

大和

「それにしてもおかしいな・・・」

時風

「へっ？何がですか大和さん」？

大和

「いや・・・普通俺達を起こしに来てくれないじゃないのか」？

時風

「それもそうですね・・・」

大和

「何かあったのかな・・・ん」？

そう話していると大和が急に立ち止まり
床に落ちているある物を拾った

時風

「どうしたんですか大和さん？
その布切れになにかあったんですか」？

大和

「この布切れ・・・シナノの服のだ・・・」

時風

「ふえっ！？シナノさんの服ですか」！？

大和

「ああ・・・なんでここにおちてるんだ」？

時風

「何かに引っかかって破れたと・・・っ」！？！？！？

大和

「ん？どうしたんだ時風」？

時風

「や・・・大和さん・・・う、上を見てください」

大和

「へっ？上・・・」？

そう言っ上を見ると・・・

大和

「し、シナノ！？ヒュウガ」！？

天井から縄でぐるぐる巻きにされ吊り下げられている
シナノとヒュウガ

時風

「し、シナノさん！ヒュウガさん！大丈夫ですか」！？

シナノ・ヒュウガ

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

大和

「駄目だ・・・気を失って・・・時風危ない」！！！！

ガバッ

時風

「キャッ」！

時風が天井に吊り下げられているシナノと
ヒュウガを見ている時、急に大和が時風を押し倒した

大和

「・・・大丈夫か時風」？

時風

「は、はい・・・な、何かあったんですか？（うわゝ大和さんの顔が近いですうゝ）」

大和

「そこ見てみる・・・（うわあゝ・・・とっさにかばったけど時風の顔が近い）」

二人とも赤面だが時風が先ほどまで立って居た所を見ると・・・

時風

「しゅっ！手裏剣」！？

さっきまで居た所に手裏剣が6個地面に刺さっていた
時風は艦魂だから艦船に被害がなければ死なないが
やはり痛みはあり気絶くらいはするのだ

大和

「誰だ！？出てこい！？こしやく小癪なてを使うより正々堂々と攻撃したら
どうだ」！？

大和が時風を抱き起こしてドックに響き渡る声で言った
すると・・・

???

「ほう・・・そんなに言うなら正々堂々と戦ってやろうではないか」
！

ストンツ

大和と時風の後ろから声と着地する音が聞こえた
大和と時風が後ろに振り向くとそこには・・・

大和・時風

「「へっ?・・・忍者」!?

そこに立っていたのは顔に覆面をしている
背中に時風の刀に似ている刀を背負っている
忍者の格好をしている少女であった
年齢は多分12～13歳くらいで
ポニーテールをしている

??

「それだけ言う事はお主・・・よほど刀の心得があるようだな・・・
早速だが行かせてもらおうでござるよ」!!!!

そう言うと少女忍者は背中の刀を抜いて大和に襲い掛かった

大和

「オワッ」！！！！

すかさず大和は備前長船永光を抜いた

カキイイイイイイイイン！！！！

鉄のぶつかりあう音がしたすると・・・

ヒュルルルルルルルルルル・・・

ドスッ！

何かが落ちる音がした

???

「ば・・・馬鹿な・・・拙者が・・・拙者が刀を飛ばされるなんて・・・」

少女忍者の刀が飛ばされ地面に刺さっていた

大和

「ふう〜・・・いきなりだったけどそうやって突っ込んでくると誰でも刀を落とされるよ」

そう言って備前長船永光を鞘にしまう大和

??

「くっ・・・不覚・・・」

大和

「おい・・・お前の名前はなんて言う・・・
ここに入ったら生きて出られないって言われている
ドックの中になんでお前みたいな女の子が入った」？

??

「拙者は・・・」

すると？？はその場から立ち上がり
覆面を取って言った

？？

「拙者は駆逐艦時風型二番艦の艦魂の時波でござる」！

大和・時風

「へっ！？・・・時波」！？

次回へ

第二十五話 少年侍VS女忍者!?(後書き)

ご意見感想お待ちしております

第二十六話 時風と時波

大和・時風

「「へっ!?!?時波」!?!?」

時波

「時波でござるが・・・何故そんなに驚くのでござる」?

前回

大和と時風は雪花専用ドックを歩いてたとき

天井に吊り下げられているシナノとヒュウガを見付けた

矢先に少女忍者?に襲われたその正体は・・・

時風

「えっ・・・今時波っていいましたか」?

時風が声を震わせながら言った

時波

「ああ言ったでござるが……お主も艦魂でござるか……」

時風

「は、はい私は時風型駆逐艦一番艦の艦魂……時風です」

時波

「っ!?!……い、今時風と言ったでござるか!?!」

時風

「はい……」

時波

「で、では……拙者の姉上でござるか!?!」

時風

「はい……貴方のお姉さんの時風です」

すると時波は時風の前に近寄りひざまずいた

時波

「改めて言わせてもらうでござる姉上

拙者は時風型駆逐艦二番艦の艦魂時波でござる・・・

姉上と会える日を65年間ずっと待っていたでござる」

時風

「私も・・・貴方に会える事を楽しみにしていました・・・」

時波

「姉上・・・」

ガバッ

そう言って立ち上がり抱き合う二人

大和

「・・・（よかったな時風）・・・あっ！シナノとヒュウガ忘れてた」

時風

「あ、そう言えば忘れてましたね大和さん」

時波

「・・・さっきから気になっていたのだがお主の名前はなんて言うのでござるか」？

そう言って飛ばされた刀を鞘に戻す時波

大和

「あ、まだ自己紹介まだだったな・・・俺の名前は矢野大和だ」

時波

「ふえっ！？い、今矢野大和と申したか」！？

大和

「言ったけど・・・どうしたんだ」？

時波

「つ、つかぬ事を聞くがお主・・・矢野菊雄の孫でござるか」！？

大和に近寄って聞く時波

大和

「そ、そうだけど・・・うちの爺ちゃんがなにか？・・・顔が近いんだけど」

時波

「ああすまぬでござる・・・しかしあの強さは孫にまで次がれるとは・・・」

大和

「・・・その言動からすると菊爺にも艦魂が見えていたようだな」

時波

「うむ・・・拙者が何度も勝負を挑んでもいつも負けていたでござる・・・」

あの鬼神のような威圧で負けた時もあるでござる・・・」

時波が冷や汗をかきながら言った。

大和

「・・・この刀の前では戦いに敗れるなっていわれてるからなあゝ多分菊爺もこれを持って暴れてたんだろう・・・」

そう話していた時・・・

シナノ

「あのゝ・・・お取り込み中に悪いんですけど・・・降ろしてもらえます」？

吊り下げられているシナノが起きた

大和

「お、起きたかシナノ」？

時風

「すぐに降ろしてあげますから待っててください」

時波

「昨日の不審者を吊り上げていたのだが・・・大和殿と姉上の知り合いでござるか」？

大和

「・・・俺の妹と弟だよ時波」

時風

「それより時波ちゃん・・・なんで吊り上げたの」？

時波

「えっと・・・その・・・なんと言うか・・・」

シナノ

「そんな事どうでもいいからはやく降ろしてえ〜〜〜」

大和

「すぐおろすから泣くなシナノ」

次回へ

第二十六話 時風と時波（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております

第二十七話 ヒュウガと・・・？

大和

「よいしょっと・・・大丈夫かシナノ？ヒュウガ」？

シナノ

「うん・・・何とか・・・」

ヒュウガ

「起きたらいきなり縛られて吊るされてるからびっくりしたぞ俺・・・」

前回

大和に襲い掛かったのは時風の妹の時波であることが分かった
65年の長い時をへて時風と時波は再開したのであった

時波

「本当にすまなかったでござる・・・まさか大和殿の兄妹に危害を加えてしまつて」

ヒュウガ

「いやいいんだけど・・・何で俺と姉さんを吊るし上げにしたんだ？

時波

「・・・実は姉上が入港した時に偵察をかねて中に転移したのでござつたが

そこでお主たちがいてなんで子供がいるのかと思つたのだが・・・もしかしたらスパイではないかと思ひ眠り玉を投げて眠らせ天井に吊るし上げにしたのでござる」

時風

「・・・そこは『話す』つて選択技はなかつたの」？

時波

「あ、それがあつたでござったな」

時波以外の全員

「「「いや気づくよ普通」」」！?!?!?!?!?」

時波に全員突っ込んだ

時波

「そ、そんな全員で突っ込まなくてもいいではないか・・・」

大和

「いや・・・普通は話をするものだよ時波・・・」

時風

「そうですよ・・・それをいきなりスパイって決め付けて眠り玉投げつけて天井に吊るし上げて・・・たち悪すぎです」

時波

「・・・そこまで言う事ないでござるう」

涙目になりながら時波が言う

シナノ

「はわわわ・・・べ、別に気にしてないから大丈夫だよ時波ちゃん」

ヒュウガ

「お、俺も気にしてないから泣かないでください時波さん」
(姉さんに似ている人だな・・・)

時波

「グスンッ・・・本当でござるか・・・」？

シナノ・ヒュウガ

「「うん（ああ）本当だよ」」

時波

「・・・かたじけない」

そう言って泣くのをやめる時波

大和

「さてと・・・母さんの所行くか」？

シナノ

「うん！早く行こうよお兄ちゃん」

時風

「私も行きます大和さん・・・時波もくるよね」

時波

「合点承知のすけでござる」

大和

「古いぞ時波・・・行くぞヒュウガ」

ヒュウガ

「あ、わりい兄貴・・・俺時風に忘れ物したから先に行つといて」

大和

「分かった・・・行くぞみんな」

時風・時波・シナノ

「「はっはい」」

全員外に出たあとヒュウガは・・・

ヒュウガ

「さてとっ・・・そのドラム缶の後ろに
いる事はわかってる・・・さっさと出てこい」！

そう言ってヒュウガはポケットから折りたたみナイフを出す
(中学1年生が何持ってんだよ・・・by作者)

ヒュウガ

「・・・正体あらわせ」！

??

「キャッ」!

そう言ってドラム缶の後ろに回り込み誰かを押さえ込み
ナイフを相手に突きつけたのだが・・・

ヒュウガ

「へっ・・・お、女の子」?

ヒュウガが押さえ込んだのは
水兵服姿の少女であった

外見年齢は11〜12歳くらいで

髪型はショートヘアで両方を髪留めでとめている

??

「はわわわわ・・・こそこそしたのは謝ります・・・
そ、そのナイフをお、下ろしてくれませんか」?

ヒュウガ

「あ、ああ・・・ごめんなさい・・・ところで君は誰だ」？

そう言って押さえ込むのをやめるヒュウガ
少女はおどおどしながら言った

??

「わ、私は・・・く、駆逐艦時風型三番艦の艦魂の時です」

ヒュウガ

「やっぱり時風さんの妹だったか・・・」

時

「あ、貴方の名前は何ですか」？

ヒュウガ

「お、俺は矢野ヒュウガ・・・なんで隠れてたんだい」(照)？

時

「わ、私は少し恥ずかしがりやで、人見知りですぐ物に隠れる癖があるんです・・・」

でも、なぜか・・・あ、貴方とはすらすらとしやべれます・・・」

(照)

何故か二人の頬は少し赤くなっている

なんかぎこちない話？が続いている

なんかヒュウガにフラグが立ってるし・・・

ヒュウガ

「えっと・・・い、一緒に時風さんの所に行く」(照)？

時

「は、はい・・・付いて行きます」(照)

次回へ

第二十七話 ヒュウガと・・・？（後書き）

登場人物紹介

ときなみ
時波

時風型駆逐艦二番艦

出身 不明

髪型 ポニーテール

外見年齢 13～14歳

身長 156・2センチ

体重・・・聞かない方が身の為

誕生日 8月2日

家族構成 姉（時風） 妹（時）

好きなもの・修行・時風・時・大和・シナノ・ヒュウガ
嫌いなもの・きつい追い討ち

駆逐艦時風型二番艦時波の艦魂

時風と同じく65年間別の隠しドックで作られて放置

されていた所を雪花が発見した

何故か忍者の格好をしているが

忍術が得意で忍法も使える

ご意見ご感想お待ちしております

第二十八話 ヤヴァイ状況・・・

大和

「・・・ヒュウガ遅くないか」？

時風

「そうですね・・・」

シナノ

「探し物ってなんだろう・・・」

時波

「やはり拙者達も付いて行った方がよかったのではないでござるか」？

前回

大和と時風達は時波がなぜヒュウガとシナノを吊るし上げにしたのか理由を聞いた後
全員で外に出たがヒュウガが

不審者を見つけ一人で立ち向かったが
その正体は時風と時波の妹の時だった

大和

「やっぱり俺達も探してきた方がいいかもな・・・」

時風

「じゃあ戻りま（兄貴）ん」？

大和たちが戻ろうとしたらヒュウガがドックから歩いてきた

シナノ

「遅かったね、何かあったの」？

ヒュウガ

「いやあ、ちょっとね・・・あれ？どこ行ったんだろう・・・」？

時波

「どうしたでござる」？

ヒュウガ

「いや・・・さつきね・・・」

大和・時風

「「・・・おい（あの）ヒュウガ（さん）・・・後ろの子誰だ（で
すか）」」??

ヒュウガ

「へっ？後ろ」？

そう言って後ろをみると時がヒュウガの服を掴んで隠れていた。

ヒュウガ

「えっと・・・時さん・・・なんでそこに隠れてるのかな？」

時

「え、えっと・・・やっぱり恥ずかしいです・・・」

大和

「・・・ヒュウガ・・・その子だれ」？

ヒュウガ

「ああ・・・この子は時さん・・・駆逐艦時の艦魂だよ」

時風

「時の艦魂って・・・私の妹の・・・」

時

「あ、はい・・・わ、私は貴方の妹の時です・・・時風お姉さま・・・」

ヒュウガの後で少しうれしそうな顔をしながら言う時

時風

「・・・これで・・・これで私の妹達が全員そろいましたね」

時風が声を震わせながら笑った

時波

「拙者が心配で気づかないなんて・・・妹ながあっぱれでござるな・
・・・」

ヒュウガ

「あれ?・・・先についていたからあってると思ったんですが」?

時

「あ、あの・・・その事なんです・・・私が逃げ回ってただけです・・・」

顔を真っ赤にしながら時が言う

大和

「だがこれで時風三姉妹がそろったって事だな」

時風

「はい大和さん」！

そう言いながら笑顔になる時風

シナノ

「それじゃあお母さんの所に行こ・・・ん?・・・あれって・・・」

警備会社の中に入ろうとしたらシナノが
何かを見つけた

大和

「ん？何か落ちてたかシナノ」？

そう言って大和がシナノの所に近づいた
そこには一台の車が止まっていた。

大和

「ゲッ！？・・・あの日産のインフエニティに悪趣味な
黒の色にファイアパターンをいれてる車は・・・」

ヒュウガ

「まさか・・・ここにいたとは・・・」

時風・時波・時

「「「ん？？？誰のですか（でござるか）」」」？？？」

時風三姉妹が首を傾げて大和に聞いた・・・
その返答は・・・

大和・シナノ・ヒュウガ

「・・・俺達（私達）の親父（お父さん）の車だ（です）・・・」

時風・時波・時

「「へっ!?!?!?!?!? 何ですって」「!?!?!?!?」

次回へ

第二十八話 ヤヴァイ状況・・・（後書き）

ご意見感想お待ちしております。

第二十九話 再びの緊急事態発生!?(前書き)

えゝ皆さん・・・★駆逐艦時風★ゝある少年の体験ゝ★のアクセスが
昨日15000アクセスを突破してユニークが4000人を突破し
ました

これも皆様のお陰で駆逐艦時風がここまで大きくなりました
ありがとうございます。

では本編に・・・

第二十九話 再びの緊急事態発生!?

矢野海上警備会社通常艦艇専用ドック倉庫内・・・

大和

「クソッ・・・ここに親父がいるとは・・・」

シナノ

「どうするお兄ちゃん・・・お母さんとはまだ会えてないし・・・」

ヒュウガ

「姉さんはまだいいよ・・・俺は無断で探しにきたんだから・・・」

」

前回

時風の最後の妹、時に会えた

ここに時風三姉妹が全員そろった

だがシナノが悪趣味なファイアパターンの模様が入った。
車を発見した、持主は大和たちの父親のもだった。

時風

「あのおく大和さん・・・私の透視能力でどこにいるか探しましたよ
うか」？

大和

「そうだその手があったんだ」！！！！

時波

「なんと姉上の能力は透視能力でござるか」！？

時

「わ、私とは違うんですねお姉さまは・・・」

シナノ

「そう言えば時波ちゃんと時ちゃんはどんな能力があるの」？

時波

「拙者は空中浮遊・・・つまり空を飛べる能力でござる・・・このとうり」

そう言って時波が立ち上がり目をつむった
すると背中から黒い翼が現れた

ヒュウガ

「・・・なんかからすの翼みたいだな」

時波

「うっ・・・拙者も気にしている事を・・・」

そう言いながら羽根をしまう時波

大和

「・・・自慢話は後でいいから・・・時風たのむ」

時風

「分かりました・・・」

そう言って時風が目をつむった

数秒後時風慌てながら目を開けた

時風

「・・・っつ!?! 大和さん大変です」!!!!

大和

「どうした時風」!?!

時風

時波

「拙者達が行ってもいいでござるが・・・

敵も拙者達を見える場合だったらこつちも危なくなるでござるよ」

皆が悩んでいる時・・・

時

「・・・あ、あのヒュウガさん・・・私の能力を使って入りますか」
？

そう言ってヒュウガの後ろにくる時

ヒュウガ

「え？　そう言えば時はどんな能力が使えるの」？

時

「わ、私は迷彩能力を持っています・・・これはここにいる全員を透明人間みたいな状態にします・・・た、ただしこの能力は10分間しか使えません」

大和・ヒュウガ

「「それだ」」！！

そう言っている時シナノが・・・

シナノ

「それよりか時風さん達の転移能力を使った方がいいんじゃないの？」

大和・ヒュウガ・時風・時波・時

「「「「あっ・・・」」」」」

シナノ

「あ・・・余計な事言っちゃった」？

次回へ

第二十九話 再びの緊急事態発生!?(後書き)

ご意見感想お待ちしております。

第三十話 大和と時風の偵察

時風

「じゃ、じゃあ行きますよ大和さん」

大和

「ああ・・・ヒュウガとシナノはちゃんと矢野陸上警備会社に連絡しろよ」

ヒュウガ

「了解したよ兄貴・・・しかし・・・大丈夫か兄貴一人で」？

前回

大和達が警備会社の倉庫で隠れていた時

時風の透視能力で大和の父、闘気と母、雪花の危機を知る。

シナノ

「あまり無茶しないでねお兄ちゃん・・・」

大和

「分かってるよシナノ・・・じゃあ時風やってくれ」

時風

「了解しました大和さん」

そう言うとき風の体が光だしたと思ったら
時風と大和はその場から消えていた・・・

シナノ

「よし・・・ヒュウガ急いで公衆電話を探して矢野陸上警備会社
に連絡するよ」

時波

「・・・そうは行かないようでござるよ・・・シナノ殿」

そう言って背中 of 忍者刀に手を伸ばす時波
時波が見ている先には武装した部隊が入って来ていた

ヒュウガ

「ちっ・・・ここにも来たのかよ」

そう言ってポケットから折りたたみナイフをだすヒュウガ

シナノ・時

「「どどどどど、どうする（どうします）？ ヒュウガ（さん）」」

ヒュウガ

「敵がこちらを見つけない事を祈るだけだ・・・兄貴は大丈夫かな」
？」

大和の状況

時風

「付きました大和さん」

大和

「ありがとう時風・・・運よく部屋の前に誰もいなくて良かった」

そう言って部屋の鍵穴をのぞく大和

時風

「・・・どうですか大和さん」？

大和

「えっと・・・旧式のボルトアクション式ライフルを持ってる男が8人とサブマシンガンを持ってる男が2人ぐらい、居ると思う」

時風

「どうします大和さん・・・これだと太刀打ち出来ませんよ」？

大和

「うーん・・・さすがに刀VS銃器だなあ・・・」

そう言っていた時・・・

正晴

「大和坊ちゃま！無事でしたか」！？（小声）

大和・時風

「「あっ！正晴さん！！無事だったんですか」」！？（小声）

大和と時風の後ろから執事服を来ている正晴が現れた。

正晴

「ええ、わたくしめは資料室で片付けをしていたので・・・坊ちゃまと時風様はどこにおられたのですか」？

大和

「俺と時風達は一般艦艇専用ドックの倉庫に隠れてたんだけど・・・」

正晴

「そうでしたか・・・一応警察と矢野陸上警備会社の者に連絡しておきましたのであと10分くらいでくるでしょう・・・しかし・・・海上警備会社の休日に襲撃にくるとは敵は何者でしょうか」？

大和

「さあ・・・もしかしたら時風達を襲った襲撃グループかもしれないな」

正晴

「確かに・・・しかし社長を人質にするとは・・・」

次回へ

第三十話 大和と時風の偵察（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております

第三十一話 戦闘開始!

ヒュウガ達の状況

ヒュウガ

「・・・(気づいてくれるなよ・・・)」

倉庫の中でシナノと時波と時とで隠れていた

前回

大和と時風は闘気と雪花の居る部屋へ転移して偵察?を行なったがヒュウガとシナノと時波と時が隠れている倉庫に敵が侵入してきた

シナノ

「ひゅ・ヒュウガ?・・・大丈夫なの?」

時

「もし見つかったら・・・」

時波

「大丈夫でござるよ時・・・拙者とヒュウガ殿でなんとかするでござるよ・・・」

ヒュウガ

「ああ・・・しかし・・・敵は何でこの海上警備会社に襲撃したんだろう」？

大和の状況

正晴

「さあ坊ちゃま行きますよ」？

大和

「あ、ああ・・・けどその装備はやりすぎじゃあない」？

時風

「戦争しに行くんじゃないんですから・・・」

正晴は腰にレイピアを装備していて胸にスタングレネードを12個
ほどぶらさげていた
(どっから持ち出した!?)

大和

「でも・・・敵が母さん達を人質にしあらどうするんですか正晴さん」？

正晴

「坊ちゃん・・・この私難波正晴がこの命に変えても
闘気様と雪花様を無傷で敵を全滅させますよ」

大和・時風

「「（なんか・・・その笑顔が逆に怖いですけど正晴さん・・・）」」

正晴は笑顔で答えたが顔が笑っていなかった

しかも後ろから黒いオーラが出ていたが突っ込まないでおこう・・・

正晴

「では・・・私が先に突入いたしますので大和坊ちやまと時風様は闘気様と雪花様を救出してください・・・」

大和

「ああ、分かったよ正晴さん・・・無茶はしないでくれよ・・・」

正晴

「分かっておりますよ坊ちやま・・・行きます」！！！！

バーーン!!!!

そう言って正晴は敵兵がいる部屋のドアを蹴破った

敵兵1

「な、何だ」！？

敵兵2

「何かが入って来たぞ」!!!!

敵兵3

「ど、どこだ！？早くて見えないぞ!・・・(シュパ)グワッ」!
!!

慌てている敵兵の一人が倒れた

敵兵2

「どうした！？・・・（ヒュンッ）ギャッ」！！！！

敵兵1

「な、！？なんだ！？どうした・・・（スパッ）グヲッ」！！！！

次々と敵兵が倒れて行く中・・・

雪花

「な、何が起こったの・・・」？

大和・時風

「母さん（雪花さん）」！！

雪花の後ろに大和と時風が居た

雪花

「大和！時風ちゃん！・・・無事だったのね」

??

「何！？大和だと」！？

雪花の隣にいるスーツ姿の男性が声を上げて驚く

雪花

「ええここに大和はいるわよ闘気さん」

闘気と呼ばれた男はその場から立ち上がって雪花と大和のそばにきた

大和

「ただいまって言えばいいのかわからないけどただいま親父」

時風

「このお方が大和さんのお父さんですか・・・」

雪花

「今戦っているのは誰なの大和」！

大和

「今は正晴さんがレイピアで敵を撃退してるんだよ」！

闘気

「そうなのか？・・・だが一つ言わせろ大和・・・この馬鹿！5日間どこにっ・・・」！

闘気が最後まで言おうとしたら・・・

雪花

「それより正晴さんを援護するわよ」！

闘気

「ちよっ・・・最後まで言わせてよ雪花・・・」

大和

「こんな時にそんな事を言おうとする親父が悪・・・危ない」！！！！

ドンッ！

シュパッ！

大和が闘気を突き飛ばし、つかさず腰の永光を抜いた
その刃先には敵兵が闘気にライフルを向けていた
大和がライフルの先端を切り捨て敵兵も倒れた

闘気

「い、行きなりなにするんだ大和」！！！！

大和

「親父が危ないから助けたんだ！せめて礼ぐらい言ってもいいんじゃないか」！？

闘気

「何だと！？それが父親に対して言う事・・・」

雪花

「あんた達喧嘩する前にこっちを手伝いなさいよ」！！！！

正晴

「喧嘩は後でたっぷりできますよ闘気様」！！！！

そう言いながら雪花は敵のライフルをへし折りながら敵をはり倒し
正晴はレイピアで敵の足を斬りつけていく

鬨気

「わ、分かった！大和！説教は後にするから逃げるなよ」！

大和

「5日間の家出生活で少し疲れたからもう逃げねえよ」！！！！

時風

「行きますよ大和さん」！！！！

大和

「了解だ時風」！！！！

次回へ

第三十一話 戦闘開始！（後書き）

登場人物紹介

時^{とき}

時風型駆逐艦三番艦

出身 不明

髪型 ショートヘアで両端を髪留めでとめている

外見年齢 11～12歳

身長 156・0センチ

体重・・・聞けなかった

誕生日 8月3日

家族構成 姉二人（時風）（時波）

好きなもの・ヒュウガ・ヒュウガという時・姉たち・楽しい事
嫌いなもの・人前に出る事（嫌いと言うか苦手）

時風型駆逐艦三番艦の艦魂

少し恥ずかしがりやで引っ込みやすい性格

ヒュウガと初めて出会った時、好意を持った

ヒュウガの後ろに隠れている事が多い

ご意見ご感想お待ちしております

第三十二話 闘気と大和

ヒュウガの状況

敵兵1

「隊長！ここには例の物はありません」！

敵兵隊長

「そうか・・・ん？あの倉庫みたいな所は調べたのか」？

敵兵2

「まだです！今から調べるところでした」

敵兵隊長

「なら早く調べろ」！

敵兵達

「「「「「了解」」」」」！！！！

ヒュウガ・シナノ・時波・時

「「「（（（まずい・・・）））」「」」」

前回

大和と時風は執事の正晴を先導に雪花と闘気が捕まっている部屋に殴り込みをして大和は闘気と再開した

敵兵がヒュウガ達の隠れている倉庫に入ろうとしている

時

「ど、どうしますヒュウガさん・・・て、敵がこの倉庫に来ますよ」

シナノ

「ここには武器なんてないし・・・ん？なんだろうこれ」？

時波

「どうしたでござるシナノ殿」？

シナノ

「・・・ひゅ、ヒュウガ・・・こ、これ・・・」

ヒュウガ

「ん？何かあったのか姉さん」？

大和の状況

大和

「ハッ」！

ドゴッ！！！！

敵兵1

「ギャッ」！

時風

「ヤッ」！

敵兵2

「て、敵が見えない・・・グオッ」！！！！

バキッ！！！！

大和と時風は自分たちの持っている刀で敵兵をなぎ倒していく
(刃はむけずにみねうち)

闘気

「邪魔だ」！

敵兵3

「グハッ」！

ドガッ！！！！

闘気は敵えお蹴りで倒し・・・

雪花

「ライフルなんて私たちには無駄」！

バキッ！メキッ！

敵兵4

「ぎゃあああああああああああ！！！！

雪花はライフルを片手でへし折り敵の足を折る雪花

正晴

「生きて帰れると思わないように・・・」

ヒュンッ！

敵兵5

「グオアッ」！！！！

正晴は敵兵をレイピアで足や手を切り刻む

敵兵隊長

「くっ・・・ひ、引けえええ！さすがに分が悪い・・・ハッ」！！！！

バシュウン！！！！

大和達

「「グウッ」」！！！！？？？

敵の隊長が投げたグレネードで部屋が一気にまぶしい光に包まれた

大和達が目を開けた時には敵はもういなかった

時風

「あらあゝ……見事に逃げられましたね」

雪花

「ちっ……もうちょっとへし折りたかったのに……」

鬨気

「ああ……でも何であいつらこの私の警備会社を狙ったんだ」？

正晴

「それは鬨気様の黄泉桜計画よみざくらけいかくが嗅ぎ付けられたのでは」？

雪花

「私もここにアレ持って来るのに妨害を受けたし……」

大和

「ん？なんなんだ黄泉桜計画って」？

闘気

「・・・話してもいいが・・・その前に・・・」

大和

「へっ」？

そうやって闘気は大和の前に立った

しかも何故か雪花が大和を羽交い絞めにしていた

大和

「えっと・・・なんで母さん押さえてるの」？

雪花

「ん？闘気さんにれいのお仕置きしてもらおう為よ」

大和

闘氣

そう言つて大和の体をくすぐる鬨気

「ちよつ！まつ、待て親父！そ、それだけは止めてくひやははははははははは」！！！」

「いや止めないぞ大和！5日間も家にいなかったんだ！だが俺も言いすぎた事は認めるが警備会社の息子が家出とはなんたる恥！その報いは受けてもらう」！

「ひやはははははははちよつ！ はははは待って！ ひやははははは・・」

時風

「……（てっきり殴るかと思ったけど……これはこれできつそう……）」

……数分後……

時風

「大和さ〜ん大丈夫ですか〜」？

大和

「……（返事がないただの屍のようだ）」

床に涎か鼻水か汗か分からない液体の中に横たわり
笑いすぎてピクピクしながら痙攣していた

闘気

「さっきから気になっていたがその水兵服の女の子は誰だい雪花」？

雪花

「あら？闘気さんも見えるの」？

時風

「えっ！？私が見えるんですか」！？

闘気にも艦魂が見えていたのだ

見えるにしては軽い反応だな雪花・・・

・・・闘気に説明中・・・

闘気

「そう言えばシナノはどうした？どうせヒュウガも一緒だろ」？

雪花

「時風ちゃん？皆を知って・・・」

ドゴオオオオオオオオオオオオオオオオオオオン!!!!

雪花が聞こうとしたら突然爆発音がした・・・

次回へ

第三十二話 闘気と大和（後書き）

ご意見感想お待ちしております。

第三十三話 爆発音の正体（前書き）

B型インフルエンザにかかり家で療養中でございます

・・・実習科目が遅れる

なんでこんな時にインフルエンザにかかったんだ俺・・・
O
r
z

少し学校の勉強が遅れる事を怖がっている重巡とねでした

では本編に行きます

第三十三話 爆発音の正体

闘気

「クソッ！あそこには護衛艇や掃海艇が停泊しているんだぞ」！

雪花

「しかもヒュウガとシナノがあそこに隠れているなんて・・・」！

時風

「私たちが闘気さんの車を見つけて大和さんが

『見つかったらやばいからそのドックに隠れよう』って言ったので
皆で隠れていたんです」

そう言ってドックに向かう5人（大和は雪花におぶさっている）

前回

大和と時風と正晴は雪花と大和の父、闘気と敵を倒した
だが、闘気のお仕置きで大和が気絶中・・・

正晴

「しかし敵が時風型を隠しているドックに向かったら・・・」

雪花

「あら？私専用ドックに入れたのよ？逆に敵の首しか残らないと思
うわよ」

闘気・正晴・時風

「「「（（（笑顔でそう言う事言うのやめてくれませんか？？？）））
「「「」

そう言っているあいだにドックの前に到着した5人

ドゴオオオオオオオオオオオン！！！！

まだ爆発音が続いている

闘気

「派手にやってるな・・・敵さんに地獄でも見せますかね・・・」

雪花

「ええ・・・時風ちゃんと正晴さんは大和を見てて・・・私と闘気さんで

中の敵を血祭りに上げて来るか『ぜ、全員撤退しろ！！！！』ん？何かしら」？

雪花と闘気が中に入ろうとしたら敵が中から慌てて出てきた

敵兵1

「見えない敵にどうやって戦えって言うんだよ」！

敵兵2

「しかも子供^{ガキ}一人が爆発する武器で攻撃してきやがっ・・・危ねえ」
！！！！

そう言って逃げている敵兵2人がその場に伏せた

ドゴオオオオオオオオオオオン！！！！

敵兵2人の近くで爆発が起こった

敵兵隊長

「クソッ！第一部隊め・・・撤退するなら最初から連絡しろ・・・」

（バキッ）グワッ」！？

敵兵部隊の隊長がいきなり倒れた

敵兵3

「た、隊長！・・・（ドゴッ）ギャッ」！？

敵兵2

「ま、またか・・・（バキヤッ）ガハッ」！？

敵兵1

「く、糞！どこだ！？・・・（ベキッ）ギャハッ」！？

敵兵が次々原因不明で倒れていた

雪花

「ど・・・どうなってるの」？

?? 1・?? 2

「お母さん（母さん）！！！！お父さん（父さん）」！！！！

突然ドックの上から声がした
全員が声のする方を見ると・・・

闘気

「し、シナノ！？ヒュウガ！？何でそこにいるんだそれにヒュウガ・
・・・
お前のその武器は・・・」

ヒュウガの右腕には弓が握られており
左腕には矢が握られているが先端が妙に大きい
背中には矢の入った矢筒を背負っていた

ヒュウガ

「親父の倉庫の中で姉さんが見つけてくれたんだ・・・鳳雛さんの弓と菊雄爺ちゃんの改造した矢をな・・・先端が迫撃砲の弾頭で出来てるからだいぶ強い攻撃力だったよ・・・だけど少し重いかな」？

そう言って矢をしまうヒュウガ

雪花

「ならさっきの爆発って・・・」

時

「は、はいこの弓矢の攻撃での爆音です」

時波

「拙者とヒュウガ殿で敵を返り討ちにしたのでござるよ」

そう言って雪花達の目の前にくる時波と時

闘気

「・・・君達も艦魂かい」？

時

「そ、そうですが・・・貴方は誰ですか」？

時が聞こうとしたら・・・

時波

「ヌオッ！？大和殿が気絶してるでござる」！？

時風

「えっと・・・理由は後で話すから・・・」

次回へ

第三十三話 爆発音の正体（後書き）

後で調べたら文字数が綺麗に1234文字でしたwww

今回予約投稿いたしましたので22日の午前1時に投稿します

ご意見ご感想お待ちしております

第三十四話 おとっつぁんの追跡！

時波

「なるほど・・・それで大和殿は気絶してるのでござるな闘気殿」

前回

通常艦艇ドックから爆発音が響き闘気と雪花と正晴と大和（気絶中）と時風が向かった

中から敵部隊が慌てて出て来ていた所にヒュウガが先端に迫撃砲弾が付いた矢を射って

時波が敵兵をなぎ倒して行っていた

時

「えっと・・・大和さんは大丈夫なんですか、時風お姉様」？

時風

「うーん・・・笑っているのか泣いているのか分からない顔して気絶しましたからね・・・」

雪花さん、大和さんはいっ起きるのですか」？

そう言って雪花に聞く時風

雪花

「そういう時はね・・・あ、ちょっと皆向こう向いててくれる」？

時風

「へっ？何ですか」？

雪花

「いいからいいから」

闘気

「おい・・・まさかアレやるんじゃないだろうな」？

雪花

「でも起こすにはこの方法しかないわよ闘気さん」？

ヒュウガ

「お、俺には見る勇気がないから後ろ向いとく・・・」

シナノ

「わ、私も・・・」

そう言って全員が後ろを向いた
その後・・・

大和

「・・・ぎゃあああああああああああああ！！！！！！」

突如、大和の悲鳴が聞こえ全員がその場で振り返った

振り向くと大和がその場で跳ねていた、何故か手を後ろに回していて
雪花が大和の永光を持って笑っていた

闘気とシナノとヒュウガは頭を抱えて『ああゝあ』みたいな顔をして
いた

時風

「や、大和さん！？何があったんですか」！？

時波

「姉上・・・拙者は分かったでござるが・・・聞かない方がいいと思うでござるよ・・・」

時

「と、ところで・・・さっきの敵兵さん達が逃げてますよ」？

全員

『な、何だって』！！！！？？？？

そう言って飛び跳ねていた大和も飛び跳ねるのを止めて驚いた

闘気

「畜生め……人の敷地を荒らして逃げるとは……ゆるさん」！

そう言って闘気はインフエニティに乗り込み急発進し後を追った

大和

「あゝあ……いっちゃった……」

時風

「って闘気さんだけで敵を倒す事は出来ませんよ大和さん」！？

雪花

「ああそれなら大丈夫よ時風ちゃん」

そう言って雪花が前に出て来た

時

第三十四話 おとっつあんの追跡！（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております

第三十五話 入ったら死（ry・・・）

大和

「警察は来たけど・・・SAT^{サット}まで来てるよ・・・」

前回

敵兵はほぼ全滅したがいつの間にか敵に逃げられて、
闘気が自分で追跡を開始した
なお、闘気は昔暴走族に所属していた事が分かった

時風

「SATって何ですか」？

ヒュウガ

「警察に所属している特殊部隊の事だよ」

時波

「特高警察みたいな物でござるか」？

大和

「あんな拷問狂の集まりと一緒にしないでもらいたいな・・・」

時

「わ、私も特高警察は嫌いです・・・」

雪花

「当たり前よ、相手は旧式のライフルとか持ってたけど、重武装な事は変わらないからSATがきてもおかしくない事件よ」

そう言って話していると・・・

闘気

「ただいま・・・」

シナノ

「あ、お父さんお帰り」

雪花

「その様子だと逃げられたみたいね」？

闘気

「・・・昔みたいにバイクだったら捕まえれたんだけどな」

警察

「この建物の責任者ですか」？

闘気

「あ、ああそうだけど？事情聴取なら受けますので少し待ってくださいか」？

そう言って大和の方に近づく闘気

闘気

「大和」

大和

「な、何だよ親父」

闘気

「えっと・・・家出したのはお前が悪いが、俺も少し言い過ぎた・・・すまんかったな」

大和

「この場で謝罪ですか・・・まあ、俺も家出したのは悪いって思ったよ・・・俺もごめん」

そう言って警察の事情聴取に行く闘気を見て大和は少し笑みを浮か

べていた

ヒュウガ

「何で笑っているんだ、兄貴」？

シナノ

「頭が壊れた」？

大和

「なわけねえだろうが」！！！！

そう言うてはしゃぐ三人に気を取られていた時・・・

警察

「ぎゃあああああ」！！！！！！！！

突然、悲鳴が聞こえ、全員がそっちに振り向いた
そこには、時風達が停泊しているドックの入り口で必死に逃げよう
とする制服警官がいた

雪花

「やばい！大和、ヒュウガ！行くわよ」！！

大和・ヒュウガ
「がってん合点」！！

時風・シナノ
「「古っ」」！！???

そう言って三人が走りだした
雪花はドックの横にある配電盤をいじくり、大和とヒュウガは警官を助けた

雪花
「大丈夫ですか」！？

警察
「あ、ああ・・・な、何なんですかあの中は」！！！！???

大和
「あの中には侵入者防止の為にトラップが沢山しかけているんですよ」

ヒュウガ
「この前、泥棒が入って骨折する怪我を負っているんですよ」

警官やその場に居た他の警官も全員身震いしていた
SATの隊員でも冷や汗を流していたのが分かった

雪花

「別名このドックは死のドックって言われているからあまり近づかないでくださいね」

次回へ

第三十五話 入ったら死（ry・・・（後書き）

ご意見感想お待ちしております

第三十六話 黄泉桜計画

大和

「はあゝ・・・やっと一段落したなあゝ」

前回

矢野海上警備会社に警察などが事情聴取をしに来た時に
警官の一人が雪花専用ドックの中に入って死にかけた

夜、矢野海上警備会社社員寮応接室にて

ヒュウガ

「でもなんで親父はここに呼び出したんだ」？

シナノ

「私に聞かれても分からないよ」

時風

「何故か私達も呼ばれているんですけど」

時波

「拙者達は何故呼ばれたかが分からないでござる」

時

「と、時波お姉様？て、天井に張り付いて言わないでくださいよ・・・」

正晴

「皆様、ジュースとお菓子をお持ちしました」

そう言って入ってお菓子やジュースを配る正晴

大和

「ありがとうございます」

ヒュウガ

「でも親父と母さんは何してるんだ」？

正晴

「さあ？私にもわかりません」

「それに・・・黄泉桜計画って何なの？」

正晴

全員

「分」！「分」？「分」？「分」？「分」？「分」？「分」？「分」？「分」？「分」？

『この手紙を見ている私の子孫へ、この手紙を見ているとなると私は死んでいるだろう・・・』

私は太平洋戦争中に魂を悪魔に売っていた・・・私の周りから非道
と言える作戦に手を貸していたのだ

その作戦は原子力爆弾を積んだ駆逐艦を敵艦隊のど真ん中で爆発さ
せる作戦であった

私は反対したが、家族や親族を非国民扱いされなくなかったので仕
方なく協力した

この手紙を見ている子孫に頼みがある・・・特攻駆逐艦時風型に原
子力爆弾を積んで

そのまま沈めてほしい・・・これ以上戦いの連鎖は封じ込めなけれ
ばいけない・・・

時風型駆逐艦に宿る魂達には悪いが・・・日本の為だ・・・平和の
犠牲になってくれ』

手紙は少し滲んでいたらしい、多分・・・菊雄が手紙を書いている
途中に流した涙の後かもしれない

正晴

「それで、闘気様と雪花様は少数の部下を連れて時風型駆逐艦と原
子爆弾の搜索をしていたんです
これを闘気様が黄泉桜計画と名づけたのです」

それを聞いた大和達は・・・

時風

「・・・私達」

時

「・・・沈んでしまうんですか」？

時波

「・・・菊雄殿の意思ならそれは仕方ないな」

大和

「・・・そんな事をいわれたって・・・俺は処分するなんて反対だぞ」！

シナノ

「私も処分するなんて反対だよ」！

ヒュウガ

「お、俺も処分には反対だ！何とか出来ないのか、正晴さん？」

正晴

「闘気様と雪花様に話してみないと・・・」

次回へ

第三十六話 黄泉桜計画（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております

第三十七話 とりあえず食べよう（前書き）

すっかり忘れていた・・・

★く駆逐艦時風★ある少年の物語く★は今日で1周年を向かえます

ここまで続いたのも読者の皆様方のお陰です

これからも駆逐艦時風をよろしく願います

では本編です

第三十七話 とりあえず食べよう

正晴

「では、私は皆さんの意見を闘気様と雪花様に伝えてきますので少々お待ちを・・・」

前回

正晴が、黄泉桜計画の全貌を聞いた

その中には時風型の開発に加わった大和の祖父の置手紙があり、その内容は原子爆弾を時風型と共に処分してほしいとの事であった

部屋に残る6人は無言だったが全員心の中で何か思っていた

大和

「・・・（時風を沈めるだと・・・時風達を沈めるなんて・・・）」

ヒュウガ

「・・・（時さんを沈める？・・・そんな事させてたまるか！！！！）」

「

シナノ

「・・・（お爺ちゃんの意見はもっともだけど・・・沈めるのはち

よつと・・・)」

時風

「・・・（大和さんとは・・・もう会えなくなるのでしょうか・・・）」

時

「・・・（ヒュウガさんともうバイバイしなければいけないのでしょうか・・・）」

時波

「・・・（菊雄殿の意思ならそれもまた良しとしたいが・・・姉上と時ともう少し話したかった）」

そう全員が心の中で思っていた時、大和が口を開いた

大和

「・・・こう塞ぎ込んでいちゃ気分が暗くなるだけだ、全員お菓子食べようぜ」

時風

「それはいいですね食べましょう食べましょう」

そう言って全員がお菓子を食べ始めた

シナノ

「これ正晴さん手作りのお菓子でしょヒュウガ」？

ヒュウガ

「この味付けは確かに正晴さんの味付けだな」

大和

「クツキーか・・・正晴さんの十八番の一つだな」

時風

「美味しいですよ、この味は初めてです」

時

「こ、このジュースも美味しいですよ」

時波

「せ、拙者65年前からお茶と水しか飲んで無かったでござるから美味すぎるでござる」！！

そう言って時波はとんでもない速さでジュースを一気飲みした

時波

「おかわり」
！！！！

シナノ

「早っ！すぐ入れるから待つて」！

そうやってジュースを時波のコップに入れようとしたら・・・

ガンツ！

バッ
シ
ア
ア
ア
ア
ア
ア
ア
ア
ア
ア
ン！

シナノが椅子に躓いて（つまづ）ジュースがシナノの手から離れ全員に掛かった

大和

「ヲイ・・・シナノ」

シナノ

「ごめんなさい・・・」

ヒュウガ

「あゝあ、ビチヨビチヨだ」

時風

「服が大変ですよ」

時

「と、時波お姉様？自分だけよけるなんてずるいですよ！」

時波

「す、すまん忍の条件反射でよけてしまった」

鬨気

「おゝい戻ったぞゝって、なんじゃこりゃ」！？

雪花

「あらら全員びしょびしょじゃないって、時波は別か・・・」

正晴

「なにが起こったのでございますか大和坊ちゃま」？

全員

「「「実は、かくかくしかじか、と言う事なんだ」「」」

次回へ

第三十七話　とりあえず食べよう（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております

第三十八話　これはこれでありか？

大和

「ふう〜さっぱりした〜」

前回

時風型駆逐艦処分の話を聞いて全員がしょげていたが
お菓子など少し食べて気を紛らわしたが、シナノが全員にジュース
をぶちまけた

ヒュウガ

「2日ぶりの風呂だからなあ〜」

シナノ

「お兄ちゃんの場合は5日ぶりかな」？

大和

「いやいや・・・俺は山の中の滝で体の汗を流してただけど」

ヒュウガ

「どこの仙人だよ兄貴・・・」

大和

「あはは・・・あれ時風達は何で顔が真っ赤なの？のぼせた」？

そう大和が聞くと時風達は顔をさらに真っ赤にした

ちなみに、全員寝間着である時風達はシナノのから借りている

時風

「い、いえ・・・何も・・・」

時波

「な、何も無かったでござるよ・・・」

時

「た、ただのぼせただけですから・・・」

ヒュウガ

「そ、そうか」

大和

「のぼせたなら仕方ないな」

大和とヒュウガは三人の言動が少し怪しいと感じながらそれ以上何も聞かなかった

二人は何故三人がこんな感じになっているのかは、時風達が胸を押

さえてるのと

シナノの満足そうな顔を見て読み取ったからである

鬨気

「全員風呂から出たな」

雪花

「鬨気さんから話があるから全員座りなさい」

そう言って全員がソファ―に座った

鬨気

「さて、さつき正晴さんから聞いたとうり、菊雄爺さんの書置きには時風型駆逐艦と共に日本製の原子力爆弾を葬ると手紙に書いてあったな」

その言葉に時風三姉妹は顔を少し下に向けた。

雪花

「その手紙を見付けた時に私と鬨気さんと正晴さんと私の直属の部隊で

時風型を探しだす計画を立てたの、時風達は全員見つかったけどまだ原爆が見つかってないのよ」

時風

「えっ？まだ原爆は見つかってないんですか」？

闘気

「人形峠周辺で作られたって書いてあるけど、正確な場所までは地図には書いてなかった」

雪花

「で、まず時をここに連れてきて、その後に時波、最後に時風を連れてきたってわけ」

闘気

「で、本題の事なんだが・・・」

大和、時風達が息を飲んだ・・・

闘気がどう発言するかを嫌な予想しかして居なかったからだ

闘気

「駆逐艦時風型の時風、時波、時は全艦この矢野海上警備会社の特殊警備艦として所属してもらう」

大和、時風達

「「へっ」「」！！！？？？」

闘気の発言に大和達全員が驚いた

大和

「お、親父？今なんて言った」？

闘気

「だから、時風型駆逐艦3隻を家の海上警備会社の特殊警備艦として運用するって言っているんだ」

時風

「そ、それって本当ですか」！？

闘気

「ああ、菊雄爺さんには悪いが時風型は会社の貴重な戦力になりそうだし、

原子爆弾は見つけ次第に解体すればいい話だ」

雪花

「それに時風さん達が見えるなら、尚更沈める訳にはいかなかったしね」

大和

「じゃ、じゃあ時風達は・・・」

闘氣

「このまま私の会社に所属させる！沈めるなんて事はしない」！

大和、時風達

「「や、やったああああああああああああああ」

全員が大声で喜んでいる中、闘気と雪花は・・・

雪花

「これでよかったの闘気さん」？

闘氣

「ああ、沈めたら全員が悲しむだろう、特に大和とヒュウガがな」

雪花

「それもそうね・・・やっぱり闘気さんと結婚してよかった」

闘気

「お、おいおいここで抱き着くのは止めてくれよ雪花」

雪花

「いいじゃない闘気さん」

次回へ

第三十八話　これはこれでありか？（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております

第三十九話 途中経過（前書き）

少し時間を動かします

第三十九話 途中経過

前回

大和達は闘気から話を聞いた、話によると時風型を沈めずに矢野海上警備会社に所属させる話であった

時風達の場合

船員確保などは矢野海上警備会社の職員だけで十分であった

時風型3隻を矢野海上警備会社に所属される事が決定されると、時風型3隻は

広島県呉市にある矢野艦上警備会社専用の造船ドックに入れられた

3隻のうち時風、時波は損傷も少しあったので船体補強や修理が少し長引いてドックから出たのは

4週間後であった

時は損傷は少なく船体の補強などですみ、時が最初に帰ってきてすぐに

矢野海上警備会社に海上保安庁から依頼が来た内容は尖閣諸島の警備であった

動かせる大型艦艇が時しかなかったもので、時が尖閣諸島沖に回された

そして、尖閣諸島漁船衝突事件が発生した

漁船が海上保安庁の巡視船に衝突しそうになった時、駆逐艦時が間

に入って
巡視船を庇^{かば}い自らが傷を受けた

2度目の体当たりの時も漁船は巡視船を狙っていたが、再び時が間に入って

自らの体に傷をつけた、

漁船は拿捕し、日本に連れ帰り、時は呉まで戻り修理、武装を強化をした

中国政府は尖閣諸島沖に旧日本軍の駆逐艦が現れたと言ったが、日本政府は何かの見間違えではないのか？と反論して時風型を公表しなかった

現在の時風型3隻は矢野海上警備会社岡山本社の雪花専用ドックで停泊している

ここまでの10月1日までの経過である

大和達の場合

大和、シナノ、ヒュウガは自分の家に帰ったらまず宿題を必死に終わらせて

呉の時風達の所で学校が始まるまで一緒にいた

学校が始まって全員、ちゃんと登校した

大和は相変わらず備前長船を持つの登校であった

9月7日の尖閣諸島漁船衝突事件を帰宅後知った
ヒュウガは少しオロオロしていたが時が無事であると聞くと落ち着
いた

大和達の日課は、休みの日には必ず時風達に会いに行く事が追加さ
れたが、
なんら支障はなかった

ここまですが10月1日までの経過である

矢野海上警備会社、雪花専用ドック

大和

「・・・・・・・・」

ここに大和が一人で足を踏み入れたその瞬間・・・

ヒュルルルルルルルルルル！！！！

大和

「っ！？はっ」！！

ドゴオオオオオオオオオオオン！！！！

大和の頭上から大きな鉄球が落ちてきて、大和は咄嗟とっさによけた
それから横の柱から矢が飛んできたが備前長船で切り落として行った
だが・・・

クイツ！

大和

「ん！？・・・しまった」！！！！

バサッ！！！！

大和の下から大きなネットに絡み取られてしまった

雪花

「は～い訓練終了よ大和～今回は惜しかったわね」

柱の後ろから雪花と時風が出て来た

大和

「だ、だってよく、感知センサーとかハイテク機器を使った後にいきなり古典的な
ブービートラップをやると誰でも失敗はするよ母さん」

時風

「私は艦魂ですからセンサーに引っかけられなかったですけど・・・これは誰でも引っかけられますね」

雪花

「でしょお？やっぱこの作戦で行った方がいいわね」

大和

「だからって息子を実験台にするなよ・・・」

雪花

「だって大和、シナノ、ヒュウガの中では貴方が一番運動神経が抜群なのよ？

これほどいい実験台はないわ」

大和はこの時、いずれ殺されかけるんじゃないかと思ったらしい

次回へ

第三十九話 途中経過（後書き）

ご意見感想お待ちしております

第四十話 大和の相棒

大和

「おはよう」

前回

大和は雪花専用ドックの中で訓練をしていた
殆どかわせた大和だったが最後に引っかかった

ここは大和の通う市立鷹松中学校
しりつたかしようちゅうがっこう

それほど大きな中学校ではないが、有名人や金持ちなども通う中学校である

生徒1

「大和君おはよー」

生徒2

「おはよう」

大和

「おはよう」

挨拶を返してくる生徒から挨拶を返す大和、その時に・・・

パンツ！

大和

「っ！？ほっ」！！

どこからか空気を押し出す音がして、大和は咄嗟に背中に背負っていた永光で（袋に入れたまま）何かを防いだ

ポトンッ

地面を見ると小さなBB弾が転がっていた

大和

「隠れて狙ったんだろうが・・・俺には当たらないって言ったろ細川」！！！！

そう大和が言うのと木の上から一人降りてきた、

片手にはモーゼルC96拳銃のガスガンを持っている

この少年が大和の事をライバル視している細川ほそかわのぶや信矢である

細川

「ちっ・・・愛想振りまくっていやがったから忠告しただけじゃあねえか」

大和

「普通の奴なら完璧に頭に命中してたぞ！学校にモデルガンを持ってくるな馬鹿野郎」！

細川

「うっせえ！ならお前の永光はどうなんだ」！？

大和

「五月蠅いのはお前だ！俺のはちゃんと許可を取って持ってきてるんだよ！

お前の親父が市議会議員だからっていばり散らすな」！！！！

細川

「黙れ黙れ黙れ！今日は徹底的に潰す！出てこい」！！！！

そう細川が言った時に周りの茂しげみから竹刀やらモデルガンを持った男子生徒が数人現れた

細川

「人の親を馬鹿にしたからこうなるんだぞ大和」！！！！

大和

「ひい、ふう・・・細川を入れて8人か・・・お前も懲りないなあ
細川」

細川

「黙れ！ここで血祭りだ！やっちまえ」！！！！

そう言った瞬間に取り巻きが大和に襲い掛かった

大和

「はあー・・・なんでこうなってしまうかね」？

取り巻き1

「ギャツ」！！！！

そう言って大和は一人の取り巻きを捕まえて押し倒して、竹刀を手に取った

取り巻き2

「死ねやあああああああ」！！！！

大和

「遅い」！！！！

ドスッ！

取り巻き2

「グハッ」！！！！

取り巻きの一人が大和に竹刀を振りかざしたが大和はそれを交わして、

腹に一撃を食らわせた

大和

「少し多いな・・・」

そう呟くが細川とその取り巻きはまだ大和を攻撃してくる
その時・・・

??

「これだけで弱音かぁーおい？大和」！！！！

突然、どこからか言葉が聞こえた

大和は上を見ると木の上に立っている少年を見た

大和

「よお！飛龍」！！！！

飛龍と呼ばれた少年の名前は難波飛龍^{なんばひりゅう}

難波正晴の孫の一人で大和の幼馴染であり、周りからは大和の相棒と呼ばれている

飛龍

「あの大和が細川相手に弱音を吐くとはなあゝ何かあったか」？

大和

「昨日母さんと特訓してたから少し疲れているんだ」

飛龍

「なゝるほど・・・まあここは俺がやつとくからお前は教室に行け、今日は何か大事な事があるんだろ」？

大和

「いけね・・・忘れてた！後を頼んだぞ飛龍」！！！！

飛龍に竹刀を渡して、大和は学校に駆けて行った

信矢

「な、大和！逃げるな」！！！！

信矢達が大和を追おうとすると・・・

飛龍

「ここは行かせないぜ」！

そう言って飛龍が思いっきり暴れ回ったすえ、5分後には細川達は倒されていた

これが大和の相棒と言われる飛龍である

次回へ

第四十話 大和の相棒（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております

第四十一話 帰宅途中にて・・・

大和

「今日はありがたいな飛龍」

前回

大和は学校に登校した時に細川とその取り巻きから攻撃を受けたが大和の相棒と言われる飛龍に助けられた

飛龍

「いいっていいって、・・・このお返しは現金で・・・」

大和

「なんでやねん」！！！！

飛龍にツツコミを入れながら歩いて帰る大和と飛龍

飛龍

「嘘だよ嘘、でも本当に珍しかったからなく細川ごときに弱音吐く大和」

大和

「いや・・・あの時は本当に疲れてたから弱音吐いてしまった」

飛龍

「ふくん・・・朝言っていた雪花さんの特訓だな・・・それと・・・」

大和

「それと」？

飛龍

「お前は誰かに恋をしている」

大和

「ふくん俺が恋ねえ・・・ん！？おおおおおお、俺が恋」！
！！？？？

突然の言葉に大和は顔を赤面にして驚いた

飛龍

「お前は気づいてないだけなんだよ大和、お前とは幼稚園からの付き合いだから分かるんだよ」

大和

「オ、オレガコココココココ、コイナンテ・・・ソソソソソソソソ、ソソソソソソソソ」！！！！

飛龍

「お、落ち着け大和！声が変になってるぞ」！？

そう大和をなだめる事数分・・・

大和

「お、俺が恋してるって？・・・だだだ、誰にだ！？飛龍」！？

飛龍

「うゝん・・・B組のきやまあおい木山蒼にかもなあゝ」

大和

「それはお前じゃあないのか」？

飛龍

「ばっ・・・違うはポケエ！俺には心に決めたお方がいるんだよ」！！！！

大和

「ふ〜ん・・・じゃあ誰だ」？

大和は自分の話題から逃れる為に飛龍に質問をそた

飛龍

「そ、それは〜その〜・・・」

そう話していると後ろから・・・

シナノ

「お兄ちゃん」！

ヒュウガ

「兄貴〜！置いて帰らないでくれよ〜」

シナノとヒュウガが後ろから走って来た

飛龍

「お、ヒュウガとシナノが来たぜ大和」

シナノ

「あ、飛龍さんこんにちわ〜」

ヒュウガ

「こんにちは飛龍兄さん、所で兄貴は明日どうするんだ」？

大和

「また母さんが俺に訓練させそうだから嫌なんだけど・・・心配させたくないしなあ」

飛龍

「（ははゝん・・・そこに居るな）明日何処か行くのか」？

飛龍は何かを企みながら大和に聞いた

大和

「明日は矢野海上警備会社に行くんだけど・・・」

飛龍

「俺も付いて行っっていくか」？

シナノ

「私はいいよ」

ヒュウガ

「どうせ兄貴の執事バトラーになるんだから付いて来た方がいいと思うぜ」

大和

「別に俺専属のバトラーじゃなくていいけどよ・・・まあ一緒に来るか」？

飛龍

「それでは明日は正晴祖父ちゃんと一緒に行きますからね大和様」

大和

「茶化すなよ飛龍」

次回へ

第四十一話 帰宅途中にて・・・（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております

第四十二話 刀と鉄爪

矢野海上警備会社・・・

飛竜

「お邪魔します、雪花さん」

前回

大和と飛龍は学校から帰宅してる途中に大和は自分でも気づいてない恋の事を飛龍に聞かされた、飛龍が矢野海上警備会社に来る事になった

雪花

「あら、飛龍君じゃない今日は何かあったけ」？

大和

「いや・・・俺の特訓に付き合ってくれらしいんだけど・・・」

飛龍

「私も体を動かさないとなまりますから一緒にやろうかと思いましたが・・・」

雪花

「あら、そんな事ならいつでもいいわよ、今日は前より改造しておいたから頑張るのよ」

大和

「また改造したのかよ・・・」

大和は少し呆れながら飛龍と雪花専用ドックに向かった

雪花専用ドック入口前

飛龍

「なるほど・・・雪花さん専用ドックなら疲れるわな」

大和

「つべこべ言わずに入るぞ」

そう言って大和は永光を腰に下げた

飛龍

「・・・お前は相変わらぬの刀だな」

大和

「そう言うお前は何か武器を持ったらどうだ」？

飛龍

「無論、俺も武器を付けるけど・・・これがちょうどいいな」

そう言って両腕に付けたのは鋭い鉄爪てつづめであつた

大和

「・・・鉄爪クローバトラ執事の異名の元になつた武器で行きますか」

飛龍

「手に持つより装着していた方が落ち着くんでね・・・行くか」？

そう言って二人は中に入つて行つた、その瞬間、ドックの中から大きな音が響いた

★

★・・・それから数分後・・・

大和

「はぁー・・・はぁー・・・母さんまたトラップ増やしやがって・・・」

飛龍

「はぁー・・・はぁー・・・お前が疲れる理由がよく分かったよ・・・」

二人はトラップを全部交わして時風が繋留されている所まで来たが、
両方息が上がっていた
そこへ・・・

時風

「大和さーん来ているんですか？」

時風が甲板から大和を呼びかけた

大和

「お、おい時風ー俺はここに居るぞ」

そう言って大和は手を振った、それを見た時風は大和の目の前に転
移して来た

時風

「大和さん、お久しぶりです、大丈夫ですか？」

大和

「今回もトラップでの特訓したから体がバキバキいつてるよ・・・」

時風

「艦内でのベットで少し休んだらどうですか？・・・その鉄爪をつけたお方は誰ですか」？

時風が飛龍に気づいて大和に聞いた

大和

「ああ、こいつは幼馴染の飛龍、正晴さんの孫で俺の友人だ」

そう大和が時風に紹介していると飛龍が・・・

飛龍

「・・・なあ大和・・・誰と話しているんだ」？

大和・時風

「「へっ」」！！???

飛龍の言葉に二人は驚いた、飛龍には艦魂が見えていないのだ

次回へ

第四十二話 刀と鉄爪（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております

第四十三話 S ハロウィンパーティー（前書き）

だいぶ遅れましたけどここでハロウィンパーティーの話です

第四十三話 S ハロウィンパーティー

前回ってあれ？・・・

雪花専用ドックにて・・・

雪花

「ヒュウガ！そっちは用意できた」？

ヒュウガ

「この飾りを付けたら終わりだ」

シナノ

「招待状もだしたし・・・後はお兄ちゃんが帰ってくるのを待つだけだね」

時風

「早く大和さん帰ってきませんかね」？

時波

「うーん・・・」

時

「どうしました時波お姉様」？

時波

「いや・・・なんか嫌な予感しかないのは拙者だけでござろうか」？

時風

「そう言えば大和さんは何処に行ったのですか」？

雪花

「それはちよつと言えないわね」

そう言つてドックを飾り付けている全員であつた
そのころの大和は・・・

矢野海上警備会社近くにある山の中

ザザザアーーーーー・・・

大和

「・・・・・・・・・・」

山の中で滝に打たれている大和とその隣にいるのは・・・

作者

「ななな、なあ・・・ややや大和」

大和

「少し黙つてろ・・・気が乱れる・・・」

作者

「きききききき、気が乱れるって・・・ななな、なんで滝に打たれ
なきやいけないんだよ・・・」

大和

「この前のテスト赤点だらけだったろうが作者！だから俺も付き合

って精進を鍛えてやるんだよ」

作者

「そそそそそ、それはそうだけど……こここここれは堪える……」

そう言って滝に打たれている大和と作者

すると、近くから誰かが歩いて来る音がした

大和

「ん？……誰だ……」？

作者

「ささささささささささ、さあ……」？

??

「ぶっは……ここまで送ってもらったのにこんな山道あるなんて聞いてないわよ……」

大和

「ん！？……女の子」？

??

「ん？……貴方達はそこで何やってるの（なんで滝にうたれてるの！？）？」

作者

「あ、貴方様は……くくくく、草薙先生の所の機動戦艦紀伊の艦魂凜様じゃありませんか」！？

大和

「えっ」！？

凜

「ああ、何処かで見た顔だと思ったら草薙の感想に迷惑感想を書いていた人ね」

作者

「そ、その事についてはすいませ、へ・・・へつくしょん」！！！！

大和

「おい作者、と言う事なんだ？なんで紀伊さんがここにいるんだ」？

凜

「あら？この子は誰なの」？

作者

「ここここ、こちらの作品の主人公の矢野大和君です・・・」

大和

「は、初めまして凜さん、こちらの作品の主人公の矢野大和です、この様な格好ですいません」

凜

「こっちの子は礼儀がなっているようだけど・・・誰が真名で呼んでいいって言った」？

作者・大和

「「あゝっ・・・・・・・・」

（草薙先生の艦魂には真名があり、これと呼べるのは艦魂の本人が許可しないと

出来ないのであるただし、艦魂同士なら真名で呼べる）

凜

「・・・嘘よ嘘、大和君だけは私の真名を呼んでもいいけどそっちは駄目だからね」

作者・大和

「「サーイエッサー」」！！

山の中での白装束を着た男二人と士官服を着た少女の奇妙な出会いであつた

その頃の時風達は・・・

時風

「そう言えば大和さんと作者さんの誕生日ってハロウィンの日ですよね」？

シナノ

「そうだよ」

ヒュウガ

「だから今回は別の作品の人達に招待状をだして盛大にやろうって事なんだよ」

時波

「確か・・・招待状を出したのは二組でござったな」？

時

「た、確か・・・零戦先生の作品の椎名さんと瑞鶴さん、それと翡翠さんの三人と、草薙先生の作品から機動戦艦紀伊の艦魂の凜さんが来るらしいですよ」

雪花

「翡翠さんには前にシナノがお世話になったからお礼を言っておかなきゃね」

ヒュウガ

「（時はなんとか翡翠さんから守らないと・・・）」

正晴

「雪花様、椎名夫妻一行が到着しました」

雪花

「はい、今行きます」

・

・・・数分後・

椎名

「オッス、ヒュウガにシナノちゃんと時風」

瑞鶴

「久しぶりだな」

ヒュウガ・シナノ・時風

「「お久しぶりです」」

椎名

「あれ？大和と、とねさんはどないした」？

雪花

「ちょっと近くの山に向かいましたけど、そのうち戻ってくるでしょう」

瑞鶴

「ん？そちらの二人は艦魂か」？

時波

「拙者は駆逐艦時風型の2番艦の時波でござる」

時

「じ、自分は駆逐艦時風型3番艦の時です・・・よろしくお願いします」

瑞鶴

「そうか・・・私は翔鶴型空母の2番艦の元艦魂の瑞鶴だ、よろしくな」

時波

「元艦魂」？

椎名

「こっちの世界では神様が艦魂を人間にしてくれたから瑞鶴は今人間なんや」

時

「へえ、そうだったんですか・・・」

シナノ

「あれ？翡翠姉はどうしたの」？

椎名

「あれ？・・・さっきまで一緒にいたのに・・・」

瑞鶴

「どうせそこら辺にいた娘でも襲ってるんじゃない」？

一方変わって大和達は・・・

大和

「じゃあパーティー会場である矢野会場警備会社のほうに戻りますか」

大和と作者は白装束から私服に着替えて山を下っていた

凜

「そう言えば・・・今日は何で私を呼んだの」

作者

「10月31日は私と大和の誕生日なんですよ、それとハロウィンも重なっているの

誕生パーティーとハロウィンパーティーを一緒にしようと言う事でゲストとして呼びしました」

凜

「ふうん」

ガサガサツ・・・

作者

「ん？・・・何か聞こえなかったか」？

大和

「・・・そのしげみに何かいる」！

そう言って大和は備前長船に手を掛けた・・・そこから出て来たのは・・・

？？

「ぶっは・・・可愛い娘ちゃん追いかけていたら道にまー君とはぐれた」

大和

「ん」！？

凜

「ゲッ・・・翡翠」！？

しげみから出て来たのは何故か黒いマントに黒いトンがり帽子を被った翡翠であった

・・・しいて言うならハ〇ヒの長〇有希の魔女の格好である

作者

「ひ、翡翠さん！？椎名さんと瑞鶴さんと一緒に海上警備会社に行ったんじゃあ」？

翡翠

「あら？大和君に凜がいるじゃない・・・いや、ちょっと道に迷って山に入っちゃった」

凜

「て言うか、何でそんな格好」？

翡翠

「へ？ハロウィンパーティーだから私も仮装しようと思って着て来たのよ」

作者

「そうだったのですか・・・私達も今向かっている所ですから一緒に行きましょう」

その頃の時風達は・・・？

時風

「椎名さん達よくお似合いですよ」

椎名

「そうか」？

瑞鶴

「翡翠のお陰で馴れてるからね」

そう言って二人が着ている格好は、椎名は口から牙をはやして全身毛だるま状態で大きな犬耳を付けた狼男の格好で、瑞鶴の格好は背中に小さな悪魔の羽根を付けて先端が少し尖っている尻尾をつけた小悪魔の格好であった

シナノ

「うーん・・・他の皆の衣装は決まっているんだけど・・・時風ちゃんをどうしようか」？

そう言ってカウガールの衣装を着たシナノが唸った

ヒュウガ

「珍しいな、姉さんが悩むなんて」

時

「スランプな訳ありませんよね」？

そう言ってヒュウガはフランケンシュタイン、時は大鎌を持って頭に2本の角が出ていて
服装はセーラー服での小悪魔の格好をしていた・・・カラーコンタクトで瞳の色が真っ赤である

時波

「拙者はこのままでいいのでござるが」？

時波はそのまんまの忍装束である

シナノ

「時波ちゃんの忍装束はそのまんまでもハロウィンに参加できるからそのまんまでOKよ」

時波

「うーん・・・何か納得できないでござる」

椎名

「翡翠がいたら速攻で決めるけどな・・・」

瑞鶴

「私はそのままの格好でもいいと思うよ」

時波

「そ、そうでござるか？・・・ならこのままでいいでござる」

シナノ

「で、時風ちゃんをどうするか・・・」

時風

「わ、私は着れば何でもいいですよ」

シナノ

「うーん・・・翡翠姉直伝の奴はお兄ちゃんに刺激が強すぎるからなあ・・・」

「ここは正当に行くかな・・・時風ちゃんこっちに来てくれない」？

時風

「いいですけど・・・変なのは駄目ですよ・・・」

その頃の大和達

大和

「やっとなつた・・・」

凜

「山の中で30分も迷ったわ・・・」

作者

「後でパンプキンケーキをご馳走しますからそれで許してください・
・・」

翡翠

「はぁ・・・はぁ・・・じゃあ早速凜ちゃんはこの萌え化け猫の衣装を着て貰いましょうか」?

そう言って涎を垂らしながら凜に近づく翡翠であった

凜

「ちょ、ちょっと待って・・・」

翡翠

「遅い」!!!!

凜

「!?!」

凜が振り向くと後ろには翡翠が居た

凜

「ちょっ!?!待っ!?!・・・きゃああああああ」!!!!

大和

「させるかい」!!!!

翡翠

「!?!?!」

ガキンッ！！！！

大和の長船が翡翠に向かって切り掛かって来て、翡翠は咄嗟に後ろに下がって避けた

長船は地面にぶつかり鈍い音を立てた

翡翠

「あ、危ないわね大和君」！？

大和

「その怪しいコスプレ凜さんにさせようとするからだ」！！！！

作者

「お、おい大和・・・」

作者が大和に話しかけようとしたが・・・

翡翠

「ふーん・・・私のかわいい娘ちゃんを愛でるのを邪魔するなら」！！！！

大和

「ん」！？

キーン！！！！

大和の長船と翡翠の日本刀が音を立ててぶつかり合った

翡翠

「へえ、私の剣を受け止める何て・・・やるじゃない」

大和

「そりゃどうも」！

作者

「お、おい大和！それ以上ブラックリスト最高峰の人物を怒らすな
！！！！」

大和

「そんな事言ってたて・・・こっちは殺気満々なんだよ」！！！！

凜

「・・・前に会った時はあんな風じゃあなかったのに・・・どうしたのかしら」？

？？

「最近可愛い娘ちゃんにコスプレ出来ないから欲求不満なんや」

作者

「ん？椎名さんと瑞鶴さんじゃありませんか・・・よく似合っている格好ですね」？

椎名

「うっさいわ、外が騒がしいから来てみたらちょうどこで錨迫り合いつてる二人がおったんや」

凜

「そんな事言っている場合！？早くあれ止めないと惨劇になりかねないわよ」！？

瑞鶴

「う〜ん・・・翡翠〜シナノちゃんが会いたがっていたわよ〜」

翡翠

「ナヌイ!!!!??? 待ってろ子羊ちゅああああああん」！
！！

そう言って走る去る翡翠

大和

「・・・早えなおい」

凜

「た、助かったわ・・・ありがとう椎名さん」

椎名

「いやいや、翡翠の扱いははこっちの人物じゃあないと無理やからな」

シナノ

「あ、お兄ちゃん帰っていたの」？

大和

「ああ、ただいまシナノ・・・シナノはカウガールか・・・」

作者

「衣装はちゃんと用意してるんだよね？シナノ」

シナノ

「もちのろんだよ作者さん、そちらの方は」？

大和

「草薙先生の所の艦魂の凜さんだよ、凜さんこちらは私の妹のシナノです」

凜

「初めまして、草薙の所の艦魂の紀伊です、真名は凜、貴方も真名で呼ぶ事を許すわ」

シナノ

「私は矢野大和の妹の矢野シナノです・・・じゃあお兄ちゃん達はそっちに衣装があるから

それを着てきて、凜さんに衣装はこっちにありますのでこっちに來てくれませんか」？

後～～～～☆

☆～～～～それから数分

大和

「何かしっくりこないな、この衣装・・・」

凜

「あら、私は似合っていると思うわよ」

作者

「・・・俺だけ日本のお化けじゃん」

大和の仮装は口から牙を生やして黒いマントを着た吸血鬼で、
凜は小さな箒ほうきを持った見習い魔女の格好で作者は落ち武者の衣装で
ある

椎名

「お、似合うとるやん大和」

瑞鶴

「とねさんの格好www似合い過ぎて面白いwww」

作者

「面白いとはどういう事ですか面白いとは」!?

大和

「それより・・・時風は何処行っただシナノ」?

時風

「わ、私はここに居ますよ、大和さん」

声の方を振り返ると壁に隠れている時風がいた

大和

「何でそこにいるんだ時風」?

時風

「シナノさんが選んだ服装が恥ずかしいからです・・・」

シナノ

「そうかなあゝ作者さんの好きなアニメの魔女の服装にしたんだけど・・・時風ちゃんも早くこっちに来なさい」！

時風

「え、あつちよ、シナノさん」！？

作者

「（・・・俺の好きなアニメの魔女って・・・まさか）」！？

シナノが時風の手を引いて大和の前に出した

大和・作者

「「んん」」！！？

大和と作者は時風の仮装を見た

時風の仮装はストライクウィットローズの宮藤芳〇の仮装であった

因みに作者の好きなキャラはフランチェスカルツキー〇です（キリッ

大和

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

ボタン！！！！

時風

「や、大和さん」！？

シナノ

「・・・これも刺激が高かったか・・・」

凜

「言ってる場合」！？

作者

「おい大和ー大丈夫かー鼻と口から血が出てるぞー」

椎名

「・・・こりゃあかんわ」

瑞鶴

「所で翡翠は」？

シナノ

「ここにいますよ」？

シナノに抱き着いている翡翠

翡翠

「シナノちゃんミツケ」

作者

「はぁ・・・大和の看病はこちらでやっときますので先にパーティーを初めててください」

その後、大和は目が覚めてパーティーに参加し、その後は全員で仮装パーティーを楽しんだ

椎名夫妻は矢野警備会社のヘリコプターで帰宅し、凜は闘気車で送ってもらった

こうして矢野海上警備会社でのパーティーは終わって後片付けをする皆の姿が夜の格納庫で見られた

次回へ

第四十三話S ハロウィンパーティー（後書き）

草薙先生、零戦先生これでよかったでしょうか？

ご意見ご感想お待ちしております

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4948n/>

★駆逐艦時風★ある少年の体験★

2011年11月18日05時29分発行